

支那委員ハ改メテ意見ヲ述フヘキ旨留保シ『日本警察官ノ支那駐在カ違法犯人ノ檢舉取締ニ在ルトセハ日本ニ於テ斯ル違法犯人ノ支那逃來ヲ禁セラルレハ自ラ本問題ヲ解決スヘクカ爲支那ノ抗議アルニ拘ラス強ヒテ警察權ヲ行使スルハ條約上並國際法上ノ根據ナシ』ト論駁セリ茲ニ於テ「ヒューズ」氏ハ外國軍隊問題警察權問題ニ於テハ支那全權ノ要求ノ如ク日本全權陳述書ノ配布ヲ俟チ考究ノ上更ニ討議スヘキ旨ヲ宣告シタリ

(二) 警察官駐在問題ニ關スル決定

十二月二日
回總委員會
支那全權
駁論

十二月二日極東問題總委員會第十一回會議ニ於テ駐屯軍問題ニ關シ支那全權ハ日本側覺書ニ對スル詳細ナル回答ノ陳述ヲ爲シタル後進シテ警察官駐在問題ニ入り次ノ如ク論シタリ

『支那全權ハ日本警察官カ支那人ニ干渉シタルコトナシトノ日本全權ノ陳述ヲ疑ハサルヲ得ス日本警察官カ支那領土内ニ於テ支那人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ拘束セル例ハ無數ニ之ヲ擧クルコトヲ得ヘシ治外法權ノ制度ノ下ニ於テハ日本人犯罪者ヲ逮捕シ又ハ證據ヲ蒐集スルニ於テ不便ヲ生スルト爲ス議論ハ却テ治外法權拋棄ヲ有利トスル理由タルヘシ支那ニ於テ治外法權ヲ享有スル諸國モ日本ノ警察權ノ併有ヲ主張スルモノナシ滿洲ニ於ケル日本人カ多數ナリトノ事實ハ同地ニ警察權ヲ樹立スルノ正當且充分ナル證據ト爲スコトヲ得ス之ヲ要スルニ支那ハ本會議ニ對シテ此種性質ノ侵略的傾向ヲ阻止スルノ手段ヲ講シ以テ支那ヲシテ其ノ獨立及保全ヲ維持スルノ努力ヲ完カラシメムコトヲ要望スルモノナリ云々』

警察官駐屯軍問題
駁論
支那全權
駁論

其後本問題ハ駐屯軍問題ニ關スル起草委員會ニ於テ支那委員ニヨリ再ヒ提議セラレタルカ「ルート」委員長ノ提議ニヨリ本件ハ駐屯軍問題ニ關スル起草委員會決議案ノ中ニ一括セラレ同決議案中武裝隊 (armed forces) ノ次ニ警察官ヲ包含スル (including police) 旨ヲ附加スルコトナリテ大正十年一月五日ノ第十七回總委員會ニ於テ報告セラレ同總委員會ハ更ニ鐵道守備隊ヲモ右武裝隊中ニ包括セシムルコトニ修正シタル上前記決議案ヲ可決スルニ至レリ (駐屯軍ニ關スル問題參照)

第七節 外國無線電信ニ關スル問題

第一項 在支電氣通信ニ關スル帝國政府一般訓令

電氣通信
ニ關スル
帝國政府
一般訓令

帝國政府ハ華盛頓會議ニ於テ極東問題ノ一トシテ電氣通信問題ノ上議セラルヘキコトヲ豫想シ本問題ニ關スル我方ノ措置振ニ付全權出發ニ際シ豫メ訓令ヲ交付シタルカ右ノ内特ニ支那ニ關係スル事項左ノ如シ

華盛頓會議ニ於ケル通信問題ニ關スル訓令

(一) 行政權保全ニ關係アルモノ

(イ) 外國軍用電信問題

在支外國軍隊駐屯ノ必要上支那ニ設置セラレタル外國軍用電信ハ外國軍隊ノ撤退ト共ニ之ヲ廢止スルコトニ同意セラレ差支ナシ

今後支那ニ於テ外國軍用無線電信ノ設備ヲナスニ當リテハ極東ニ於ケル自國領域内ノ最近局ト直接通信シ得ル最小限度ノモノニ限ルノ主義ヲ各國ヲシテ承認セシムル様努力セララルヘシ

(ロ) 支那ノ公認シ居ラサル通信 (郵便及電信) 機關撤廢問題

支那ニ於ケル同國政府ノ公認シ居ラサル通信機關撤廢問題論議セラルル場合ニハ帝國政府トシテハ何等斯ル施設ヲ爲シ居ラサル旨ヲ聲明セラルヘシ尤モ證據ヲ擧ケテ我施設ノ事實ヲ指摘セラルルカ如キ場合アルニ於テハ右ハ恐ラク支那内地ニ於ケル通信設備不備ノ爲メ我居留民等非常ナル不便ヲ感シ便宜ノ方法ヲ講スルノ已ムヲ得サル事情ニ出ツルモノナルヘキ旨聲明セラルト同時ニ支那側ヲシテ是等内地ニ關スル通信機關ノ完備ヲ圖ラシムルノ必要ヲ説述セラレタシ

(ハ) 山東ニ於ケル通信機關及舊獨逸海底線並青島佐世保線問題

山東問題善後措置ニ關スル細目中ニ於テ併セテ訓令セリ

(二) 獨占及優先權ニ關係アルモノ

(イ) 三井無線電信契約問題

三井無線事業ノ支那對外通信上ノ獨占權ハ該局建設費償却ノ必要上該局ノ收入ヲ擔保スル爲存在スルモノニシテ昨年華府國際通信豫備會議ニ於テモ二個以上ノ通信事業カ經濟上併立シ得サル場合ハ例外トシテ獨占權ヲ承認スルノ趣旨決議セラレタルニ鑑ミ該事業ノ獨占權ハ之ヲ一般ニ承認セシムル様主張セラルヘシ

(ロ) 電信電話材料供給ニ關スル優先權問題

- (1) 中日實業會社電話借款契約(電話材料供給上ノ優先權)
 - (2) 中國電氣公司設立契約(電信電話材料供給上ノ優先權)
 - (3) 中華滙業銀行有線電信借款契約(有線電信材料供給上ノ優先權)
 - (4) 交通部對東亞興業會社有線電信擴張改良費立替拂契約(有線電信材料供給上ノ優先權)
- 本件優先權ハ他ノ一般優先權撤廢問題ト共ニ考慮措置セラレ差支ナシ

(ハ) 支那「ナショナル」無線電信會社設立契約問題

(ロ) ノ場合ニ準ス

(ニ) 大北大東通信會社獨占權問題

大北大東兩電信會社ハ一九三〇年十二月末日迄支那ニ於ケル對外通信上ノ獨占權ヲ有ス(大北電信會社ハ露國ニ對シ日本及支那ニ達スル海底線ヲ太平洋岸ノ露領西伯利亞陸地ニ於テ持續スルコトヲ竝ニ許可スルコトヲ禁スル旨ノ特權ヲ有シ一九二六年十二月末日迄存續ス)

右ノ獨占權ヲ前記期限終了後延長セシメサル事ハ帝國政府ノ希望スル所ナルモ兩會社カ英國ト密接ナル關係ヲ有スル事情

ニ鑑ミ帝國ヨリ進ムテ提議スルコトハ之ヲ避ケラレタシ

(ホ) 米支間無線電信問題

三井無線電信契約問題ノ趣旨ニ依リ帝國政府ニ於テハ本件「フエデラル」無線電信會社ノ契約ヲ認ムルコト能ハサルニ付之カ實現ヲ阻止スル様努力セラレタシ

(ヘ) 「ヤツプ」海底線問題

本件ニ關シテハ既定ノ方針ニ基キ措置セラルヘシ

華盛頓會議ニ於ケル通信問題ニ關スル訓令説明書拔萃

(二) 三井無線電信契約問題

三井無線電信契約問題ハ訓令ノ趣旨ニヨリ獨占權ノ主張ヲナスモ契約文ノ不備ヲ利用シテ或ハ獨占權ハ支那政府カ三井ニ該局ノ經營ヲ委託シタル後ニ於テ始メテ發生スルモノトシテ經營ノ委託ナキ今日獨占權ハ成立シ居ラサル旨ヲ以テ反駁シ來ルヤモ圖ラレサル處三井ハ該局經營ノ委託ヲ受クル了解ノ下ニ契約シタルノミナラス假令萬一經營ノ委託ナキ場合ニ於テモ局建設費ノ償却ハ局ノ收入ヨリ支辨セラルヘキヲ以テ其ノ收入ヲ確保スル爲メ獨占權ハ存在スルモノト云ハサルヘカラス尙又獨占權ヲ設定シタル附屬協定ハ本件契約ノ一部ヲ爲スモノトシテ千九百十八年三月五日ヲ以テ締結セラレ同年二月二十一日締結ノ附帶契約(三井ニ運用權ヲ附與シタル本契約ヲ變更シテ局完成後直チニ支那政府ニ於テ之ヲ讓受クルコトトナシタルモノナルモ同政府ノ希望ニ依リ三井ニ經營ヲ委託シ得ルモノトス)ヨリモ後ニ成立セルヲ以テ見ルモ三井ニ局ノ經營ヲ委託スルト否トニ拘ハラス該獨占權ハ成立セルモノト云ハサルヘカラス

(二) 外國軍用電信廢止後ノ處置問題

外國軍用電信廢止ノ場合ニ該設備ヲ撤去スルコトハ必スシモ得策ナラサルヘキニ付爾後支那側ヲシテ之ヲ公衆通用ニ利用セシムル等善後處置ニ關シテハ廢止ノ際支那側ト適宜協議スルモ一策ナルヘシ

第二項 無線電信ニ關スル支那側主張

支那提案
第五項
無線電信
問題
十一月二
十九日
委員會
第九回
會議
米英全
權
說明

(一) 無線電信問題上議

華府會議ノ開會スルヤ太平洋及極東問題委員會ハ先ツ支那ニ關スル一般原則ヲ議シタル後議題ニ關スル米國試案ノ順序ニ從ヒ支那ノ領土的保全ニ關スル問題ヲ討議スルコトナリタルカ十一月二十五日ノ極東問題總委員會第六回會議ニ於テ支那全權ハ支那ノ行政上ノ保全ニ對スル制限事項五件ヲ擧ケ其ノ第二トシテ支那ニ於ケル外國有線及無線電信裝置ニ關スル問題ヲ提起セリ越エテ同二十九日ノ同委員會第九回會議ニ於テ無線電信問題ハ初メテ上議セラレタリ

本問題ノ討議ニ入ルヤ劈頭「ヒューズ」氏ハ先ツ在支無線電信ヲ(一)團匪事件議定書ニ基ク列國軍隊專用ノ公用電信(二)何等條約上ノ根據ナキモノノ二種ニ分チ第一種ニ屬スルモノハ討議ノ範圍外ニ置カルヘク第二種ニ屬スルモノニ就テハ米國ノ關スル限り曩ニ上海領事館ニ設置セラレタル無線電信ハ既ニ之ヲ撤去スル考ニテ機械ハ裝置シアルモ現ニ之ヲ使用シ居ラサル旨ヲ說明セリ

次テ「バルフォア」氏ハ英國ノ關スル限り支那ニ於ケル無線電信ハ土耳其斯坦ノ「カシユガル」ニ設置セラルモノノミニシテ同裝置ハ専ラ過激派防禦ノ必要ニ出テタルモノナル旨ヲ報告セリ

「ヒューズ」氏更ニ本問題ニ關スル論議ノ希望アリヤト問ヘルニ「ヴィグイア」氏ハ本件審議ノ用意未タ不充分ナルヲ以テ次回ニ延期シタシト提議シ遂ニ右ニ決シテ散會セリ

尙同回會議ニ於テ支那側ハ在支外國駐屯軍ニ關スル調書ヲ各國全權ニ配布シタル際之ト共ニ支那ニ於ケル外國無線電信局表ヲモ添附シタルカ其ノ内容ヲ掲クレハ次ノ如シ

支那ニ於テ其ノ同意ナクシテ設置セル外國無線電信局表

日本

在支無線
電信ニ關
スル支那
側調書

一、北	京	(日本公使館)
二、秦	皇	島
三、天	津	
四、哈	爾	賓
五、滿	洲	里
六、公	主	嶺
七、龍	井	村
八、大	連	
九、濟	南	
一〇、青	島	
一一、漢	口	
佛	國	
一、上	海	(佛國租界)
二、廣	州	灣 (租借地)
三、安	南	府
四、天	津	
英	國	
一、香	港	(九龍租借地)
二、カシユガル		

一、北 京 (米國公使館)
二、天 津
三、唐 山

(二) 支那側要望

十一月十日
支那全權
會同各國
公使館
在東京
所屬無線
電信問題
各國全權
陳述

次イテ翌三十日極東問題總委員會第十回會議ニ於テ本問題ヲ續議シタルカ同日支那全權施氏ハ『千九百一年團匪事件議定書ニ基キ設立セラレタル在北京各國公使館所屬ノ無線電信局ハ條約上ノ根據アルモノナルニ付其撤廢ヲ要求セサルモ(一)此等ノ電信局ハ全然官用電信ヲ取扱ヒ商業用ニ使用セサルコト(二)波長ヲ制限シ他無線電信局ノ作業ニ差支ヲ生セサルノ手段ヲ講スルコトノ條件ヲ確立スルコトニ致シタシ』ト要望スル所アリ之ニ對シ「ヒューズ」氏ハ『第二點ハ關係國代表者間ニ協定ヲ爲スコト必要ナルヘク米國ハ其協定ヲ成立セシムル爲ニ努力ヲ吝マサルモノナルカ本問題ハ惹イテ議事順序ニ關スル米國試案末段ニ揭ケタル太平洋通信問題ニ關係ヲ生シ特殊專門ノ考量ヲ加フルノ必要アリ其影響ノ及フ所廣大ニシテ近時出現セル重大問題ノ一ナルヲ以テ今回ノ會議中之ニ對シ最終的ノ解決ヲ與フルコトハ望ムヘカラスト雖適當ノ時期ニ於テ本問題考量ノ端ヲ開キ置クコト然ルヘシ』ト述ヘ「グレイヴィア」氏ハ佛國ハ從來支那ニ於テ軍用電信局及公衆用電信局ヲ有シ相當ニ成績ヲ舉ケ居ル處公私兩電信局間ニ截然タル區別ヲ立ツルコト困難ノ事情ナキヤ支那ノ現狀ニ顧ミ幾分疑ナキ能ハス』ト述ヘ次テ「バルフォア」氏ハ『英國ハ支那ニ無線電信ヲ有セサルヲ以テ本問題ニ對シ直接利害關係ヲ有セサルモ一般問題トシテ私見ヲ述フレハ(一)單ニ在北京各國電信局間ノ問題トシテ關係諸國間ニ電波制限ニ關シ何等カノ協定ヲ遂クルコト可能ナルヘキカト考フルモ(二)更ニ大ナル問題トシテ一般的ニ無線電信局ノ使用スル電波ヲ制限スル問題ニ至ラハ眞ニ其ノ影響廣大ニシテ高度ナル專門的討議ヲ必要トスルモノニシテ之ヲ本會議ニ求ムルハ至難ナルノミナラス或ハ將ニ人類歷史上光輝アル事業ヲ完成セントスル本會議ニ對シ過度ノ要求ヲ爲シ却テ其成效ヲ妨クルノ虞アリ從

ツテ予ハ斯カル廣汎ナル方面ノ討議ヲ避ケ單ニ在北京各國公使ヲシテ協議ノ討議ヲ遂ケシムルヲ以テ妥當ノ處置ナル可シト信ス』ト陳述セリ

「ヒューズ」氏ハ之ニ對シテ「バルフォア」氏ノ所見ハ予モ全然同感ナルモ唯斯クノ如キ重大ナル無線電信問題ニ對シ本會議ニ於テ其ノ端緒ヲ開キ置キタシトノ見地ヨリ前述ノ如キ提言ヲ爲シタルニ過キス』ト辯明シタル上前記支那側提案即チ

(一) 一九〇一年議定書ニ依リ公使館用トシテ設置セラレタル無線電信ハ之ヲ商業用ニ使用セサルコト

(二) 是等無線電信局ニ於テ互ニ電波ノ長サヲ制限シ他局ノ作業ニ支障ヲ及ボササルノ協定ヲ遂クルコト

ノ二點ニ付キ各員ノ賛否ヲ問ヘリ

植原全權
承認言明

茲ニ於テ植原全權ハ『日本ハ北京公使館附屬無線電信ヲ官用ニノミ使用スヘシトノ第一點ニ對シ贊同ノ意ヲ表スルモノナルモ萬一北京ト外部トノ通信ノ途杜絶セラルルカ如キ場合アラハ其ノ節ハ右無線電信ヲ官用以外ノ用途ニ充ツルノ權利ヲ留保セサルヲ得ス必スシモ商業的使用ト謂ハスト雖嚴格ニ公用ニノミ限ルヲ得サル場合ナシト謂ハサルヘカラス電波ニ關スル第二點ニ付テハ日本政府ハ何等異存ナキノミナラス進ンテ關係諸國ト協定ニ到達スルニ盡力ヲ吝ムモノニアラス』ト述ヘタリ

「ヒューズ」氏ハ更ニ支那ニ無線電信局ヲ有スルハ米佛日三國ノミナリヤト尋ネ施全權ハ尙伊國モ一小受信局ヲ有スル旨ヲ答フルヤ伊國「ジャンザ」氏ハ『右小受信局ニ關シテハ他關係諸國ト共ニ支那ノ要求ニ應スヘキモ他ニ通信ノ途ナキ場合ノ留保ヲ爲スコトヲ要ス』ト述ヘタリ次ニ「グレイヴィア」氏ハ『佛國ハ天津ニ陸軍用小無線電信局ヲ有スルモ右ハ商業的ニ使用スルノ意思ナシ他ニ尙公衆用電信局二箇所アリ右ハ支那ニ於ケル租借地問題ニ關聯スルモノニシテ之ト引キ離シテ考量シ難キモノナリト思考ス支那ニシテ若シ十分ニ通信ノ機關ヲ完備スルニ於テハ此等ヲ撤廢スルニ躊躇セサルモ日本ノ提出シタルカ如キ留保ハ支那ノ現狀ニ鑑ミ佛國モ之ヲ必要トス兎ニ角本問題ハ專門的考量ヲ必要トスルヲ以テ其ノ討議ヲ特別委員會ニ附スルコト然ルヘシ』ト提案シ「ヒューズ」氏ハ『幸ヒ廣汎ナル權限ヲ有シ本委員會ニ於ケル有力ナル委員ヲ

佛國全權
特別委員
會議附託提

支那全權
再陳述

以テ組織セラレタル起草委員會成立シ居ルヲ以テ之ヲ其ノ議ニ附スルコト一案ナル可ク夫レトモ他ニ特別ノ委員會ヲ組織スヘキヤト諸ル所アリ依テ埴原全權ハ一言注意シタキコトアリトテ支那全權ノ義ニ列舉セル日本無線電信局表中(一)哈爾濱ニ於ケル無線電信局ハ日本ノ管理下ニアラサルコト滿洲里ニハ無線電信局ナキコト龍井村ノ電信局ハ撤廢セラレタルコトヲ説明セリ次テ施全權ハ本件ニ關シ各國委員ノ示サレタル同情ニ對シ深く感謝スルノ意ヲ述ヘ『支那ハ決シテ千九百一年ノ覺書ニ基ク無線電信所ノ撤廢ヲ求ムルモノニ非ラサルコトニツキ誤解ナカラントヲ希望ス電波制限ノ件ニ就キテハ只支那電信局ノ電力最大ナルニ顧ミ他ノ小無線電信局ニ依リ作業ノ妨ケヲ受サランコトヲ欲スルニ止マレリ商業の使用禁止ノ點ニ付テハ勿論他ニ通信ノ途ナキニ至レル場合ニ於テハ官用以外ノ使用モ已ムヲ得サルコトト思考スルモ支那郵傳部ヨリ通信再開ノ通知アリタル場合ニハ直ニ原狀ニ復歸スルコトト致シタシ尙條約上ノ根據ナキ無線電信局ニ付テハ「グイグイ」氏カ支那側ニ於テ通信機關完備次第同國電信局ヲ撤廢スヘシト云ハレタルヲ深ク多トス尙支那ハ北京上海廣東吳淞等ニ無線電信所ヲ有シ尙北京上海ニハ最近大無線局設立中ナリ』ト述ヘタリ然ルニ「グイグイ」氏ハ支那委員ノ言ニ少シク誤解アリトテ佛國ハ只諸國ト共ニ進退スルノ覺悟ヲ有スルモ單獨ニ支那ト交渉セントスルノ意ニ非スト斷リタル後重ネテ專門委員會案ヲ提唱セリ

起草委員
會附託決定

依テ「ヒューズ」氏ハ『電波長ノ點ニ付テハ關係國公使館ヲシテ協定ヲナサシムルト云フノ外此際何等ノ處置ニ出ルコト能ハズ又商業の使用ノ問題モ日本ノ留保ノ下ニ各國同意ヲ與ヘタル次第ナルヲ以テ寧ロ起草委員ノ手ニ移スコト然ルベシ』ト其主張ヲ支持シ「バルフォア」氏モ之ニ贊同シタルカ最後ニ「アングーウッド」氏ハ寧ロ廣汎ニシテ専門的ナル電波長ノ問題ハ本委員會ニ於テ論セサルコト然ルヘシト雖モ結局專門委員ヲ任命スルノ必要アリヤ否ヤモ考究セシムルコト、スヘシト提議シ結局是等ノ問題ハ凡テ起草委員ニ附託セラルニ至レリ

第三項 起草委員會ニ於ケル協議

(一) 「ルート」決議案

常設起草
委員會設置

是ヨリ先十一月二十八日極東總委員會第八回會議ニ於テ佛國全權「グイグイ」氏ヨリ各全權カ何レモ多忙ナル際各問題ニ關シ決議案起草ノ爲メ一々特別委員會ヲ設クルハ煩雜ニシテ實行的ニアラサルヲ以テ各國事務總長ヲ以テスル常設の起草委員會ヲ設置シタシトノ提議アリタルカ「バルフォア」氏ハ之ニ加ヘテ起草委員ハ其ノ任務重大ナルヲ以テ責任ヲ有スル各國全權ヲ以テ組織スルヲ必要トストノ意見アリ結局各國首席全權ノ指名セル全權又ハ全權代理者一名宛ヲ以テ常設起草委員會 (Standing Sub-Committee of Drafting Resolution) ヲ設置スルコトニ決定セリ

十二月三
日第一回
起草委員
會

該起草委員會ハ十二月三日ヲ以テ第一回會議ヲ開キ劈頭第一ニ極東問題總委員會ヨリ附託セラレタル無線電信ニ關スル決議案起草問題ヲ議セリ

「ルート」
決議案

Agreed:

1. That all radio stations in China maintained under the provisions of the protocol of September 7, 1901, for the settlement of the disturbances of the year 1900, shall be limited in their use to sending and receiving government messages and shall not receive or send commercial or personal and unofficial messages;

Provided, however, that in case all other telegraphic communications are interrupted then, upon official notification accompanied by proof of such interruption to the Chinese Department of Wireless Communications, such stations may afford temporary facilities for commercial and personal messages until the Chinese Government has given notice of the termination of the interruption.

2. All radio stations operated within the territory of China by foreign Governments of their citizens under treaties or concessions of the Government of China, are to limit the messages sent and received by the

terms of the treaties or concessions under which the respective stations are maintained.

3. In case there be any radio station maintained in the territory of China by a foreign Government or citizens or subjects thereof without the authority of the Chinese Government, such station and all the plant, apparatus and material thereof, shall be transferred to and taken over by the Government of China, to be operated under the direction of the Chinese Wireless Administration, upon fair and full compensation to the owners for the value of the installation, as soon as the Chinese Wireless Administration is prepared to operate the same effectively for the general public benefit.

4. The owners or managers of all radio stations maintained in the territory of China by foreign Powers or citizens or subjects thereof are to confer with the Chinese Wireless Administration for the purpose of seeking a common arrangement to avoid interference in the use of wave lengths by wireless stations in China, subject to such general arrangements as may be made by a general international conference for the revision of the rules established by the convention of 1912, entitled.....

(右譯文)

一、支那ニ於ケル一切ノ無線電信局ハ一九〇一年九月七日ノ議定書ノ規定ニ依リ一九〇〇年ノ擾亂解決ノ爲メ存置セラレタルモノハ其使用ヲ公用通信ノ發受ニノミニ制限シ商業用若クハ個人用及私用ノ通信ヲ發受セサルヘキモノトス但、他ノ一切ノ電氣通信ニ故障發生シタル場合ニハ上記無線電信局ハ右故障ノ證據ヲ具シテ支那無線電信當局ニ公然通告ヲ發シタル上支那政府ヨリ右故障終了ノ通告ニ接スル迄一時商用及私用上ノ通信ニ便宜ヲ供與シ得ルモノトス

二、條約又ハ支那政府ノ許容ニ依リ外國政府又ハ外國人カ支那領土内ニ於テ運用スル一切ノ無線電信局ハ該無線電信局存置ノ基礎タル條約又ハ許與ノ規定スル範圍ノ電報ニ限り之ヲ發受スルコトヲ得

三、支那政府ノ許可ナクシテ外國政府又ハ外國人カ支那領土内ニ設置セル無線電信局アル場合ニハ支那無線電信當局カ一般公衆ノ利便ノ爲メ之ヲ同様ニ有效ニ運用シ得ルニ至ルト共ニ該無線電信局及其ノ一切ノ設備機具及材料ハ該設備ノ價格ニ對シ所有者ニ充分且公正ナル賠償ヲ支拂ヒタル上支那政府ニ交付シ支那無線電信當局ノ管理ノ下ニ運用セシムヘシ

四、外國政府又ハ外國人カ支那領土内ニ設置セル無線電信局ノ所有者又ハ經營者ハ支那ニ於ケル無線電信局ノ電波長ノ使用上妨碍ヲ避クル爲メ協定ヲ遂クル目的ヲ以テ支那無線電信當局ト協議スヘシ

但該協定ハ一九一二年ノ協約規定改訂ノ爲メニ開カルヘキ國際會議ニ於テ決定セラルヘキ一般協定ニ遵據スヘキモノトス

日英佛各
國委員ノ
異議

右決議案ノ討議ニ入ルヤ佛國委員「カムメラ」氏ハ佛國ノ關スル限リ第一、第二ニハ異議ナク第四項ニ關シテハ主義上之ニ異議ナキモ或種ノ留保ヲ爲スヘシ第三項ニ至リテハ佛國カ支那ニ於テ上海ノ租界及廣州灣租借地ニ二箇ノ無線電信局ヲ有シ該局ハ居留地取極乃至租借條約ニ依ル行政權ノ作用トシテ之ヲ運用シツ、アル關係上之ヲ承認スルコト難シト述ヘ英國全權ハ本決議案中特ニ公使館無線電信ニ關スル規定ナキヲ難シ且ツ「本決議案カ九龍租借地及「カシガル」ニ於ケル英國無線電信ヲ含ミ規定セラレタルモノト解スルヲ得ス公使館内ノモノニ付テハ商業及新聞電報取扱ヲ爲ササルコトトスヘシ」ト述ヘ佛國全權亦廣州灣ノ無線電信ヲ除外スヘキヲ再論シ埴原委員モコノ點ニ關シ鐵道附屬地ハ租借地ト同一視スヘキモノニシテ第三項中租借地及南滿洲鐵道附屬地ニハ除外例ヲ設クヘキコトヲ主張セリ

支那委員
辨駁

之ニ對シ支那委員ハ租借地内ニ設置セラレタルモノニ關シ許容ノ範圍ニ就キ疑義アルトキハ許容者ノ有利ニ解釋スルヲ要スト説キ且ツ上海佛國租界ニ於ケルモノハ何等ノ條約上ノ根據ナク若シ之ヲシモ許與スヘクンハ同様ノ問題カ次テ起リ支那主權尊重ノ大主義ハ爲メニ大ニ害セラルルニ至ルヘシトテ租界内無線電信ニ關スル佛國全權ノ所説ニ反對シタリ於是議長

ハ英國全權ノ公使館内無線電信ニ關スル非難ニ鑑ミ決議案ニ or in the grounds of any of the foreign Legations ヲ加フシト述ヘ且ツ『第三項ニ關スル英佛兩國ノ主張ハ同項ニ in China other than territory leased to such Governments ヲ加フルニヨリ満足セラルヘシト告ケタルモ英國全權ノ說ニ從ヒ之ヲ leased territories ト改ムルコトナレリ於是佛國全權ハ外國居留地ニ於ケル無線電信設置カ毫モ支那ノ主權ヲ侵害セサルコト恰モ電車、電燈、水道等ノ場合ニ於ケルト異ナルコトナシ』ト述ヘタルカ支那全權ハ『租借地ノ性質ハ租借條約ニ依リ同一ナラサルモ概言スレハ支那ノ主權ハ留保セラレ租借國ハ單ニ行政上ノ權力ヲ行使シ得ルニ止マレリ依テ租借地ニ關シテハ別ニ其意見ヲ述フヘシ居留地ニ付テハ上海ニ於テ佛國設置ノ分ヲ承認セハ今後他ノ無線電信ヲ非認スルヲ得サルヘキニ付佛國全權カ此點ヲ再考セラレ度シ』ト述ヘタルニ英國全權ハ居留地ニ外國無線電信ヲ設置スルノ權ナシトシテ此點ニツキ支那委員ノ主張ヲ支持シタルモ佛國全權ハ尙ホ之ニ同意セス第三項ノ討議ヲ打切ルノ得策ナルヲ主張シ且ツ佛國政府ハ將來ニ關スル問題ヲ決スルカ爲メ協定スルノ意思アルモ過去ノ事實ニ付キ討議スルヲ得スト述ヘタリ

鐵道附屬
地内局ニ
關スル日
支間論議

次イテ鐵道附屬地内ニ設置セラレタルモノニ關シ填原全權ハ日本ハ右附屬地ニ於テハ公主嶺ニ一局ヲ有スルノミニシテ其ノ運用ハ專ラ鐵道守備隊用ニ限ラル、旨説明スルヤ議長ハ日本委員ハ右鐵道附屬地内無線電信局ヲ商業上及私用ニ使用セサル旨ノ一般協定下ニ置クニ異議ナキヤヲ問フルヲ以テ填原全權ハ日本トシテハ同局ヲ商業上ノ使用ニ供スルノ意思ナキモ條約上鐵道附屬地ニ於テハ日本ハ行政權ヲ有スル關係上本件ハ別箇ノ問題トシテ取扱ヒ度キ旨ヲ述ヘタルニ支那全權ハ『鐵道附屬地ハ租借地ト全ク其ノ性質ヲ異ニセリ鐵道附屬地ノ起源ハ東支鐵道ニ關スル露支間ノ協定ニ存シ之ニ依リ鐵道會社ハ鐵道保護ノ措置ヲ爲スノ權ヲ得タリ此ノ權限ハ千九百一年ノ露支協約ニ包含セラレサル行政權ノ行使ヲ含ムモノニアラスシテ是レ哈爾濱市制問題ニツキ斷乎タル露國ノ支配下ニ在ル外國人團體ノ代リニ國際市制ヲ設置シタルニ鑑ミテモ明亮ナリ』ト述ヘタリ於是填原全權ハ『予ハ日本カ鐵道附屬地ニ於テ絶對的行政權ヲ有スルコトヲ述フルノ外此點ヲ論議

各國委員
意見不一
致

スルヲ欲セス』ト酬イタリ
最後ニ議長ハ租借國カ租借地内ニ無線電信局ヲ設置スルノ權アルコトニ付キ異議ナキヤヲ尋ネ議長ハ更ニ進ンテ在支外國無線電信ニ關シテハ

- 一、一九〇一年九月ノ議定書ニ依リ設置セラレタルモノ
- 二、公使館内ニ在ルモノ
- 三、租借地内ニ在ルモノ
- 四、居留地内ニ在ルモノ
- 五、南滿鐵道附屬地内ニ在ルモノ

ノ五種ニ分類シテ各箇ニ付テ各國委員ノ意見ヲ求メタルニ支那全權ハ尙ホ租借地ニ付キ意見ヲ留保スヘシト說キ其後種々論議ノ末本問題ハ之ヲ次回ノ起草委員會ニ於テ讀議スルコトナレリ

(二)「ルート」案審議

十二月五
日第二回
起草委員
會「ルート」
案逐條討
議第一項

越エテ十二月五日ノ第二回起草委員會ニ於テ「ルート」議長ハ前回提出セル其ノ決議案ヲ再報告シテ逐條討議ヲ求メタリ先ツ「ゲデス」氏ハ第一項 unofficial ノ前ノ and ヲ改メ messengers ノ次ニ including press matter ヲ挿入スヘキコトヲ提議シテ可決セラレ次イテ顧氏ハ under the provisions of the protocol of September 7, 1901 ナルヲ under the provision of the international protocol of September 7, 1901 ト修正シ for the settlement of the disturbances of the year 1900 一節ヲ削除スルノ提議ヲ爲シタルカ是亦異議ナク可決セラレタリ

顧氏ハ更ニ進メテ or in the grounds of any of the foreign legations in China トアルヲ whether in the grounds of foreign legations in China or elsewhere ト改ムルコトヲ希望シタルモ斯クテハ廣ク國際法及慣習ニ關涉スル嫌アリトテ英佛伊各國委員ノ反對スル所トナリ支那委員モ遂ニ其ノ提議ヲ撤回シタルカ「ルート」氏ノ提議ニヨリ右一節ヲ or in fact maintain in

the grounds of any of the foreign legations in China to改マルトハナリ

第二項 第三項

次イテ第二項ノ審議ニ入ルヤ「ゲデス」氏ハ are to ヲ改メテ shall to 爲サムコトヲ提議シ右ノ通り決シテ同項ハ通過セリ
第三項ニ付テハ填原委員ハ territory of China ノ次ニ except leased territories in the South Manchuria Railway Zone ノ一
句ヲ挿入シ以テ鐵道附屬地ノ地位ヲ明カニセムコトヲ主張シ佛國委員「カンメラ」氏モ佛國租界内ノ無線電信局除外方ヲ
重ネテ主張シ伊白兩國委員モ之ヲ支持セリ右ニ對シ支那委員ハ無線電信ニ關スル問題ハ特殊ノ關係ヲ有スルモノニシテ他
ノ通信ニ關スル協定ハ必然的ニ無線電信ヲ包含スルモノニアラサルコトヲ指摘シ專管居留地ニ於テ無線電信局ヲ存置スル
外國ノ權利ニ對シテハ支那ハ留保ヲ爲ササルヘカラサル旨ヲ主張シ更ニ進シテ日本ノ鐵道附屬地ニ關スル主張ニ對シテハ
該附屬地ノ沿革ヲ概説シタル上一九〇七年ノ協定ニ於テハ有線電信ノ使用ハ單ニ鐵道用ニノミ限ルヘキモノトセラレタル
ヲ以テ該協定ハ當然ニ右附屬地ニ無線電信局ヲ設置スルノ權利ヲ包含スルモノニ非サルコトヲ切言セリ英國委員モ大體ニ
於テ右支那委員ノ主張ヲ支持スルノ態度ニ出テタルヲ以テ填原委員ハ日本ハ鐵道附屬地ヲ完全ニ支配スルモノニシテ一九
〇七年ノ議定書ハ本件ニ關シ殊ニ規定スル所ナキモ何等無線電信局設置ニ關スル權利ヲ除外スルモノニ非スト解スル旨重
ネテ論駁シ佛國委員モ亦強硬ニ其ノ地位ヲ固持セリ斯クシテ第三項ニ關スル議論容易ニ果テサリシヲ以テ結局之後廻ト
スルコトトシ續イテ第四項ノ審議ニ入りタルカ are to ヲ shall to 改メタル外何等異議ナクシテ同項ノ審議ヲ了レリ
依テ更ニ第三項ノ討議ニ復シタル處結局主トシテ「ゲデス」氏ノ提議ニ基キ第三項中日佛兩國ノ主張ニ關スル點ハ分離シテ
新ニ第四項ヲ設ケ原案第四項ハ之ヲ第五項ト爲スコトニ漸ク決定シ尙字句ノ修正等ノ爲メ次回會議ニ於テ更ニ本問題ヲ續
議スルコトトナレリ新ニ設ケラレタル右第四項ハ次ノ如シ

第四項 第四項新設

4. If any questions shall arise as to the radio stations in leased territories, in the South Manchuria Railway
Zone and in the French Concession at Shanghai, they shall be regarded as matters for discussion between the Chinese
Government and the Government concerned.

十二月六日 起第三回 會議 案書 修正 案書 了

翌十二月六日第三回起草委員會ニ於テ「ルート」議長ハ前回修正ヲ經タル決議案ヲ朗讀シテ修正意見ヲ求メタルカ結局第一
項ニ於テ支那委員ノ提議ニ依リ Chinese Ministry of Posts and Communications 及 Chinese Ministry of Communications
ト改メ第二項 citizens ヲ citizens or subjects ト改メ第三項ニ於テハ英國委員ノ提議ニヨリ general international conference
ヲ改メテ an international conference ト爲シ茲ニ於テ全ク「ルート」決議案ノ審議ヲ完了セリ

第四項 極東問題總委員會ニ於ケル決議

(一)「ルート」修正決議案成立

前述ノ如ク前後三回ノ起草委員會ニ於テ「ルート」決議案ノ審議ヲ結了シタルヲ以テ十二月七日極東問題總委員會第十三回
會議ニ於テ本件起草委員會委員長「ルート」氏ハ前日ノ起草委員會ニ於テ決定セル決議ヲ朗讀シ之カ討議ニ移ラムトスルヤ
填原全權ハ右決議案ノ討議ニ先チ起草委員會ノ席上ニ於テ漢口、青島、濟南ノ三無線電信局ニ關シ日本委員ノ爲シタル陳
述即チ漢口ニ於ケルモノハ同地駐屯軍ノ撤退ト共ニ撤去スヘク青島及濟南ニ於ケル二局ハ目下進行中ノ日支間山東交渉ニ
ヨリ決セラルヘシトノ趣旨ヲ本總委員會本會議ニ於テ確認セムコトヲ要求シタル處「ルート」氏ハ「起草委員會ノ決議案ハ
單ニ原則ヲ定メタルモノニ過キスシテ青島及濟南ノ無線電信問題カ山東ニ關スル日支會商ト共ニ圓滿解決スルカ如キヲ妨
クルモノニ非ス」ト答ヘタリ

次テ「ヴィヴィア」氏ハ右決議案ハ無線電信問題ニ對スル一般の規定タルニ止マルヲ以テ更ニ立入りテ列國間ニ協定ヲ遂
クル必要アリト信ス支那ニハ現時「マルコニー」「フエデラル」及三井ノ三無線電信所アリ其ノ結果或ハ外交上經濟上問題ノ
紛糾ヲ來ス虞ナキニアラス相互ニ競争スルカ如キハ雷ニ愚策ナルノミナラス紛糾ノ原因タルヘシ巴里講和會議ノ際米國ハ
無線電信ハ特殊國間ノ問題タルニ止マラス實ニ世界的問題タリトシ列國ノ協調共助ノ必要ナル所以ヲ高唱セルカ全ク同感
ナルモ亦此ノ點ヲ議事録ニ留メラレムコトヲ望ム」ト述ヘテ右決議案ニ同意ヲ表セリ次テ顧維鈞氏ハ填原全權ニ對シ在漢

無線電信 競爭停止 提議 全權 了

十二月七 日極東 委員會 第十回 會議 案書 修正 案書 了

「ルート」
決議案可決

口無線電信ニ關シ起草委員會ニ於テ同全權カ之ヲ商用ニ使用セサルヘキ旨ヲ述ヘタルコトヲ指摘シテ其ノ確認ヲ求メタルヲ以テ埴原氏ハ同無線電信ハ専ラ駐屯軍隊用ノ爲使用セラルルモノナル旨明答スル所アリタリ
茲ニ於テ「ヒューズ」氏ハ漢口及山東ニ關スル埴原全權ノ陳述ハ何レモ議事録ニ記載スルコト然ルヘク又「グイヴィアニ」氏ノ無線電信競争廢止ニ關スル提案ハ重要ナルニ付更ニ同氏ヨリ決議案ヲ提出セラレンコトヲ望ム』ト述ヘ進ンテ「ルート」決議案ノ採決ニ入ルヤ滿場異議ナク之ヲ可決セリ

該決議案全文左ノ如シ

The Representatives of the Powers hereinafter named participating in the discussion of Pacific and Far Eastern questions in the Conference on the Limitation of Armament—to wit: The United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, the Netherlands and Portugal,

Have resolved:

1. That all radio stations in China whether maintained under the provisions of the international protocol of September 7, 1901, or in fact maintained in the grounds of any of the foreign legations in China, shall be limited in their use to sending and receiving government messages and shall not receive or send commercial or personal or un-official messages, including press matter, provided, however, that, in case all other telegraphic communication is interrupted then, upon official notification accompanied by proof of such interruption to the Chinese Ministry of Communications, such stations may afford temporary facilities for commercial or personal or un-official messages, including press matter, until the Chinese Government has given notice of the termination of the interruption.
2. All radio stations operated within the territory of China by a foreign Government or the citizens or subjects thereof under treaties or concessions of the Governments of China, shall limit the message sent and received by the terms of the treaties or concessions under which the respective stations are maintained.
3. In case there be any radio station maintained in the territory of China by a foreign Government or citizens or subjects thereof without the authority of the Chinese Government, such station and all the plant, apparatus and material thereof shall be transferred to and taken over by the Government of China, to be operated under the direction of the Chinese Ministry of Communications upon fair and full compensation to the owners for the value of the installation, as soon as the Chinese Ministry of Communications is prepared to operate the same effectively for the general public benefit.
4. If any question shall arise as to the radio stations upon the leased territories, in the South Manchurian Railway Zone or in the French Concession at Shanghai, they shall be regarded as matters for discussion between the Chinese Government and the Governments concerned.
5. The owners or managers of all radio stations maintained in the territory of China by foreign Governments or citizens or subjects thereof shall confer with the Chinese Ministry of Communications for the purpose of seeking a common arrangement to avoid interference in the use of wave lengths by wireless stations in China, subject to such general arrangements as may be made by an international conference convened for the revision of the rules established by the International Radio Telegraph Convention signed at London July 5, 1912.

(右譯文)

支那國ニ於ケル無線電信局ニ關スル決議案

華盛頓會議ニ參加シタル諸國即チ亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ノ各代表者ハ左ノ如ク決議ス

- 一、支那國ニ於ケル一切ノ無線電信局ハ千九百一年九月七日ノ國際議定書ノ規定ニ依リ設立維持セラルルモノト事實上支那國ニ於ケル各外國公使館構内ニ設立セラルルモノトヲ問ハス其ノ用途ヲ官用電信ノ發受ニ限定スヘク商用私用又ハ非官用ノ電報(新聞電報ヲ含ム)ヲ發受スルコトヲ得サルヘシ但シ他ノ一切ノ電信ニ依ル通信ニ故障アル場合ニ於テハ右故障ノ證據ヲ添ヘテ支那國交通部ニ公文通告ヲ發シタル上前記無線電信局ハ支那國政府ヨリ前記故障終了ノ通告ニ接スル迄ノ間商用私用又ハ非官用ノ電報(新聞電報ヲ含ム)ニ對シ臨時便宜ヲ許與スルコトヲ得
- 二、條約又ハ支那國政府ノ特許條件ニ依リ外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民カ支那領土内ニ於テ運用スル一切ノ無線電信局ハ其ノ設立維持ヲ認ムル條約又ハ特許條件ノ規定スル電報ニ限り之ヲ發受スルコトヲ得
- 三、支那國政府ノ許可ナクシテ外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民ニ依リ支那國領土内ニ設立維持セラルル無線電信局アル場合ニ於テハ該無線電信局竝其ノ一切ノ設備、器具及材料ハ支那國交通部カ一般公衆ノ利益上之ヲ有效ニ運用スルノ準備整フト共ニ其ノ施設ノ價格ニ付充分且ツ公正ナル補償ヲ前記所有者ニ與フルヲ條件トシ同交通部ノ指揮ノ下ニ運用セシムル爲之ヲ支那國政府ニ移轉スヘシ
- 四、租借地、南滿州鐵道附屬地又ハ上海佛國租界内ニ在ル無線電信局ニ付問題起ルトキハ該問題ハ支那國政府及關係國政府間ノ審議事項ト認メラルヘシ
- 五、外國政府又ハ其ノ人民若ハ臣民カ支那國領土内ニ設立維持スル一切ノ無線電信局ノ所有者又ハ經營者ハ支那國交通部ト商議シテ支那國ニ於ケル無線電信局ノ電波長使用ニ對スル妨害ヲ避クル爲共同取極ヲ爲スヘシ但シ千九百十二年七月五日倫敦ニ於テ署名セラレタル國際無線電信條約ノ定ムル規則ノ改訂ノ爲ニ召集セラルル國際會議ニ於テ決定セラルルコトアルヘキ一般取極ニ從フヘキモノトス

本決議案ハ其後一月二十七日極東問題總委員會第二十七回會議ニ於テ全會異議ナク可決セラレタリト雖本件ハ在支外國無線電信競爭防止問題ニ關スル協議ニ密接ナル關係アルヲ以テ便宜上之ヲ右防止問題ノ節中ニ併記シタリ

(二) 外國軍用無線電信ノ設備問題ニ對スル帝國全權ノ態度

在支無線電信問題ニ關スル決議案ノ成立ヲ見ルニ至リタル事情上記ノ如クナル處曩ニ帝國政府カ全權出發ニ際シ通信問題ニ關シテ之ニ與ヘタル一般訓令ニ依レハ『今後支那ニ於テ外國軍用無線電信ノ設備ヲ爲スニ當リテハ極東ニ於ケル自國領域内ノ最近局ト直接通信シ得ル最小限度ノモノニ限ル』トノ趣旨ヲ各國ヲシテ承認セシムル樣努力スヘシトノコトナリシカ元來支那ニ於ケル無線電信ノ一般的裁撤ヲ期セントスル討議ニ際シ將來ニ於ケル施設ヲ豫想セル新提議ヲ試ムルニ付テハ右提言ノ好機會ヲ擇フノ要アリ然ルニ本件討議ノ進展ハ進ンテ之ヲ提言スルニ便ナラス強テ之ヲ提議スルトキハ益々論議ヲ滋クスルノ虞アルノミナラス前記我方針ハ其ノ内容專門的事項ナルニ付旁々寧ロ決議案第五項將來國際無線電信會議開催ノ際電波長ノ問題ニ關聯シテ提議スルコトトスル方得策且ツ有效ナルヘシト認メタルヲ以テ帝國全權ハ前記討議ニ於テ本件提議ヲ差控ヘ總委員會ニ於テモ右ノ趣旨ヲ以テ措置スルコトニ決定シ如上ノ趣旨ヲ帝國政府ニ具申シテ其ノ承認ヲ求メタリ

第五項 在支外國無線電信競爭防止問題

(一) 「ヴィヴィアニ」氏決議案

十二月十二日極東問題總委員會第十五回會議ニ於テ「ヴィヴィアニ」氏ハ同委員會第十三回會議ニ於ケル「ヒューズ」氏ノ提議ニ應ジ在支無線電信ノ競爭廢止ニ關シ大要左記決議案ヲ提出セリ

Whereas, competition in the establishment and operation of wireless stations in China, far from bringing about the creation of the necessary radio communications between China and the other countries, has on the

十二月十二日第十五回總委員會「ヴィヴィアニ」氏決議案

帝國全權
請訓
軍用無線
電信設備
問題

contrary produced results the reverse of aimed at, the Powers represented at the Washington Conference consider that this competition should give way to cooperation under the control of the government of China.

Therefore it is decided that a Committee shall be formed including representatives of the interested countries and of China to draw up practical recommendations in accordance with which this co-operation shall be accomplished in conformity with the following principles:

1. The purpose of the co-operation should not be to favor certain interests at the expense of others, but to enable China to obtain radio communications established and operated as much in its own interest as in that of the public of all countries and to avoid the waste of capital, of staff, of material and of wave-lengths.
2. To this end China should be enabled to possess, as soon as possible, radio stations with all the latest technical improvements that can be contributed by the various companies of the countries which are concerned in the improvement of radio communications with China.
3. Radio communications within the Chinese territory shall be subject to the Chinese laws and the external radio communications (between China and other countries) shall be regulated by the international conventions governing such matters.
4. The Governments of the Powers mentioned in the preamble shall give no support to any company or to any person who does not conform to the above principles as well as the practical rules prescribed in accordance with the recommendations of the Committee.

Supplementary suggestion.

5. The rates charged for radio communications shall never be higher than the rates for communica-

tions by wire or cable for equivalent distances and government and press messages shall benefit by a reduction of at least 50 per cent.

(右譯文)

支那ニ於ケル無線電信所ノ設置及運用ニ關スル競争ノ結果ハ支那ト他諸國間ニ必要ナル無線通信ノ便ヲ齎ラサリシノミナラス却テ庶幾ニ反スル結果ヲ生スルニ至リタルニ依リ華盛頓會議ニ代表者ヲ出セル列國ハ右競争ヲ廢シテ支那政府監督ノ下ニ協力ノ實ヲ舉クルヲ得策ナリト思考シ依テ次ニ掲クル原則ニ從ヒ右協力ヲ完ウスヘキ實行の勸奨ヲ起草セシムル爲メ關係諸國及支那ノ代表者ヨリ成ル一委員會ヲ組織スルニ決定セリ

(一) 協力ノ目的ハ他當事者ヲ犧牲トシテ或當事者ノ利益ヲ進ムルコトニ存スヘキモノニ非スシテ總テノ國ノ公衆ノ利益ノ爲メ同時ニ支那自身ノ利益ノ爲メ支那ヲシテ無線通信ノ設備及運用ヲ爲スヲ得セシメ且ツ資本、人員、材料及電波長ノ浪費ヲ避ケントスルニアリ

(二) 右ノ目的ヲ達スル爲メ可成速カニ支那ヲシテ支那トノ無線通信ノ改善ニ利害ノ關係ヲ有スル列國ノ諸會社ヨリ供給シ得ヘキ總テノ最新ノ技術的改良裝置ヲ有スル無線電信所ヲ有スルヲ得セシムヘシ

(三) 支那領土内ノ無線通信ハ支那ノ法律ニ從ヒ又外部(支那及他國間)トノ無線通信ハ斯ル事項ヲ規定スル國際協定ニ從フヘキコト

(四) 前文ニ列記セル各國政府ハ上記原則及委員會ノ勸奨ニ從ヒ規定セラレタル實施細則ニ遵ハサル會社若クハ個人ヲ支持スヘカラサルコト

追加提議

(五) 無線通信ニ對スル料金率ハ之ニ相當スル距離ノ陸上電報又ハ海底電線ニ依ル通信ニ對スル率ヨリモ高カラサルヲ要シ政府又ハ新聞通信ニ對シテハ最低五十「パーセント」ノ割引ヲナスコトヲ要ス

「グイ
アイ
ニ」
議案
審議

右ニ關シ濠洲委員「ピアース」氏ハ『同案第二項及第四項末段ノ趣旨明瞭ナラス或ハ支那ニ現存スル諸會社ヲシテ實際上獨占的地位ヲ確立セシムルノ虞アルカ如シ』ト述ヘ之ニ對シ「グイヴィアイアニ」氏ハ『其ノ趣旨全ク支那ニ於ケル諸會社間ノ激烈ナル競争ヲ止メ協力ノ實ヲ擧クルニアリ決シテ實際上ノ獨占ヲ馴致セントスルモノニ非ス』ト答ヘ伊太利全權「シヤンザ」氏ハ「グイヴィアイアニ」氏ノ趣旨ヲ了解シタルモ措辭稍々面白カラサル節アル旨ヲ述ヘタリ次イテ「バルフォア」氏ハ「混沌タル支那無線電信事業ニ對シ秩序ヲ整ヘントスル努力ハ最も必要ナリ支那ハ各種ノ許與ヲ爲シ錯雜紛糾ノ結果無益ニ精力ヲ費シツツアルノ虞アリ」ト前述シ「今日支那ニ無線電信所ヲ有スル國ハ丁、英、日等其ノ主ナルモノナルカ是等諸國ノ有スル確定ノ權利ハ充分ノ保護ヲ爲ササルヘカラス將來ニ對シテハ

(一) 支那ノ主張ヲ尊重スヘキ事

(二) 現存利益ヲ調節スヘキ事

(三) 新會社ハ從テ借款國ノ形式ニ倣フ事

(四) 現存利益ヲ「プール」スルニ當リ妥當ナル評價方法ヲ決定スル事

「バル
フォ
ア」
氏
提
議

等ノ方針ヲ以テ進ムヘキカ右ハ當座ノ思付キニ過キス之ヲ要スルニ本決議案ハ起草委員ニ附托シテ尙充分討議スル必要アリ」ト唱ヘ蘭國全權「カルネビーク」氏ハ「主義ニ於テ「グイヴィアイアニ」案ニ賛成ニシテ細目ハ更ニ調査ヲ要スヘシト雖右決議案ノ趣旨ヲ決定スルコトハ良好ナル出發點ヲ爲スモノト謂フヘシ」ト述ヘ埴原氏ハ「本問題ハ地理的地位及現存利益ノ關係上日本ニ取り重大問題ナルヲ以テ討議前專門家ト相談ノ必要モアリ暫ラク時ヲ假サレタシ」ト述ヘタリ施肇基氏モ支那モ亦日本ト同様ノ地位ニ在ルヲ以テ少クトモ二日間ノ猶豫ヲ請ヒタシ」ト述ヘタリ

次イテ白耳義全權「カルチエー」氏ハ「無線電信問題ハ門戸開放主義ト牴觸スヘカラス從テ充分慎重ノ討議ヲ要ス」ト述ヘ葡國全權「ダルト」氏ハ本件ハ寧ロ一般の國際會議ニ於テ取扱フヲ可トスヘシトノ意見ヲ開陳セリ茲ニ於テ「ヒューズ」氏ハ「本問題ニ對シ日支兩國ハ討議延期ヲ希望シ其ノ他諸國モ起草委員會附託ニ先チ猶討議ヲ爲サムコトヲ希望セラルルモ

「グイ
ヴィ
アイ
ア
ニ」
議案
審議

ノノ如シ」ト述ヘタル處「アンダーウツド」氏ハ「電波長問題ハ支那一國ノ問題ニ非スシテ世界ノ問題ナリ海洋ノ自由ト併セテ空中ノ自由モ亦輕々ニ取扱フヘカラス人文ノ發達ハ既ニ各國民ノ平等自由ヲ認メムトス從ツテ「グイヴィアイアニ」決議案中電波長ニ關係スル點ハ支那ニ於ケル特殊ノ會社カ特殊ノ權利ヲ確立スルカ如キコトナキ様注意ヲ要ス是等ノ取極ハ便宜問題トシテ差支ヘ無キ場合モアルモ權利特權ノ問題トナラサルコト肝要ナリ」ト陳ヘ「ルット」氏ハ「アンダーウツド」氏ノ所言モ亦重要ナレトモ「グイヴィアイアニ」氏案ノ趣旨ニハ全然左袒セサルヲ得ス以テ將來ノ好指針タラシムヘシ」ト陳ヘタリ最後ニ「グイヴィアイアニ」氏ハ「本問題ハ重大問題ナルヲ以テ決議ニ到達スルコト困難ナルハ素ヨリ承知シタル所ナリ余ノ念トスル所ハ只支那ノ無線電信事業ノ現狀ヲ改善セントスルニ在リ」ト述ヘ結局何等纏マル所ナク更ニ後日討議ヲ繼續スルコトナレリ

(二) 「グイヴィアイアニ」案ニ對スル帝國ノ態度

「グイ
ヴィ
アイ
ア
ニ」
議案
審議

帝國
全權
對策

前記「グイヴィアイアニ」氏ノ提案ヲ見ルニ該決議案第二項ハ支那ノ爲メ出來得ル限り速ニ最新式ノ無線局ヲ關係各國會社ヲシテ提供セシムヘシトノ趣旨ナル處右ハ現ニ我三井請負ノ無線電信局以外ニ同種ノ大無線局ヲモ直ニ建設スルコトヲ得ルモノト解スルヲ得ヘク果シテ然ラハ三井無線事業ノ有スル獨占權即チ無線局建設費償却ノ保障ヲ破壞スルノ結果ヲ來スノ虞アルヲ以テ帝國トシテハ頗ル考慮ヲ要スル所ナリ然ルニ此際我方ニ於テ右三井ノ獨占權ヲ指摘主張スル時ハ或ハ問題自體ヲ紛糾セシメ却テ我方ニ不利益ナル結果ヲ齎スノ虞アリ旁々帝國全權ニ於テハ熟慮ノ末愈々本件討議ノ場合ニ若シ右第二項ノ趣旨ニシテ最新式ノ設備ヲ有スル無線局ヲ支那ヲシテ建設スルヲ得セシムルヲ主眼トスルモノナリトセハ右ハ寧ロ當然ニシテ特ニ之ヲ規定スルノ要ナク又若シ支那ノ爲出來得ル限り速ニ關係國會社ヲシテ無線局ノ供給ヲ爲サシムルヲ主眼トスルモノナルニ於テハ既ニ決議案前文及第一項ニ於テ無線局ノ建設運用其ノ他ニ關シ關係國協同ノ主義ヲ明ニセル以上全ク無用ノ規定ナルノミナラス第一項ニ定ムル資本等ノ浪費ヲ防カントスル趣旨トモ矛盾スルノ嫌アリ寧ロ將來對外通

信料増加シタル場合ニ考慮スルモ遅カラス從テ第二項ヲ全然削除スルコト然ルヘキ旨ヲ提議シ以テ間接ニ三井無線ノ獨占權ヲ擁護スルニ勉ムルニ決セリ

帝國全權
諸國

而シテ右決議案其ノ後ノ成行如何ハ豫知シ難カリシモ少クトモ無線電信事業ニ對シ將來各國協調共助ノ精神ヲ以テ無益ノ競爭ヲ避ケントスルノ主義ハ成立セラルルニ至ルヘク幸ニシテ前記我方方針ノ通決議案第二項ノ削除ヲ見ルニ至ルモ三井諸國ノ無線局ノ經營ハ將來各國同業者協同ニテ之ニ當ルコトナルヘキヲ以テ飽迄モ我方單獨ニテ之ヲ運用セシメントスルノ希望ハ到底貫徹シ難シト思考セラレタルヲ以テ帝國全權ハ右意見ヲ具シテ前記對案ニ付帝國政府ノ承認ヲ請ヘリ

佛國提案
ノ真意

然ルニ其ノ後十二月十五日佛國全權隨員ハ我隨員ニ對シ支那無線協同案ニ關スル佛國側ノ内意トシテ佛國提案ノ真意ハ支

佛國無線
事業合同
案

那拉主トシテ支那無線ニ利害關係ヲ有スル日英米佛四國間ニ協同シテ各國均等ノ基礎ニ於テ一ノ民間事業ヲ組織シ商業通信ノ中心地ニ無線局ヲ設ケムトスルニ在リ若シ各國共協同案ニ異議ナキニ於テハ右協同方針ニ從ヒ各國關係事業者ヲシテ實行上ノ細目ヲ協議セシムルコトシタク英國側ハ本國政府ニ委細請訓中ナルヤニテ其ノ意審判明セサルモ米國側ハ大體本件協同方針ニ賛成ナルカ若シ右協同案成立セサルニ於テハ佛國側ハ米國會社ト協同シテ上海方面ニ局ヲ建設スル意嚮ヲ有スル旨ヲ語り全權會議外ニ一應専門家ノ間ニ非公式ニ意見ノ交換ヲ爲シタキ意嚮ナルヤノ口吻ヲ洩シタリ右ニ對シ我方ニ於テハ單ニ先方ノ説明ヲ聽取スルニ止メタルカ事重大ナルヲ以テ帝國全權ハ直チニ次ノ如ク再稟スル所アリタリ

協同案ニ
關シ再申

『前電ニテ御承知ノ如ク本件協同案ハ既ニ免レ難キ歸趨ニシテ此際我方ニ於テ既得權ヲ楮ニ取り獨占的主張ヲ試ミルモ到底貫徹ヲ期シ難キ儀ト思考セラルルニ付テハ右協同ニ關スル具體的組織案ニ關シテハ尙篤ト考究ノ必要アルヘキモ佛國側ニ於テ非公式懇談ノ希望アルヲ幸ヒ重ネテ先方ヨリ何等相談ニ接シタル節ハ我方専門家ヲシテ我方針ニ就キ何等「コンミット」セサル範圍ニ於テ先方トノ接觸連絡ヲ計ラシメ以テ米佛等ノ間ニ我方ヲ除外シ談議ヲ進捗セシメサル様措置スヘキニ付右御含置アリタシ』

一月六日
帝國政府
同勸

然ルニ支那ニ於ケル對外通信ハ大北大東兩社ノ獨占權ニヨリ實際上一九三〇年末迄制限セラレ居ルヲ以テ該獨占權ノ廢止

ヲ見サル以上「ヴィヴィアニ」氏案ハ同年末迄殆ト空文ニ終ルコトナルノミナラス本件決議案ハ無線電信ノミニ關聯スルモノナルヲ以テ該案ヲ一般電氣通信ノ問題トセス其ノ儘決定ヲ見ルカ如キ場合アルニ於テハ三井無線ノ獨占權ノミ廢棄セラルルコトトナリ我方ニ對シ頗ル不利益ナルノミナラス該案ノ精神ヨリ見テ極メテ不徹底不公正ノモノト云ハサルヘカラサルヲ以テ帝國政府ハ關係官廳トモ打合ノ上在華府全權ニ對シ大正十一年一月六日本件決議案ハ趣旨ニ於テ異存ナキモ前記ノ如ク頗ル考量ヲ要スルモノアルニ付キ寧ロ本案ニ對シテハ支那ニ於ケル有線無線電信ニ關スル一般原則ヲ決定セントスルノ趣旨ヲ以テ適當ノ修正方ヲ提議シ本件ト併セテ右大北大東兩社保有ノ獨占權廢止問題ヲモ論議セシムル様努力スヘキ旨訓令シタリ

(三) 「ヴィヴィアニ」案ニ對スル英佛代案

英佛兩
國合
示
同新
案內

大正十一年一月中旬英佛兩國全權隨員帝國全權隨員ヲ來訪シ左記ノ如キ在支無線電信合同案ヲ非公式ニ内示シ右合同案ハ英佛兩國合意ノ上起草セルモノニシテ該案ニシテ關係各國ノ承認ヲ得ルニ於テハ客年十二月十五日總委員會ニ於テ「ヴィヴィアニ」氏ノ提出セル決議案ハ之ヲ撤回スヘキ旨内諾セリ

1. A combination of wireless interests to be formed under the general authority of the Chinese Government for the purpose (1) of constructing such wireless stations as may be required by that government, either against cash payment or against the security of revenue derived from them; and (2) of working the stations until paid for or longer if China so desires. The financial basis of the combination to be substantially an equal share for the wireless interests of France, Great Britain, Japan and the United States; the Great Northern Telegraph Company to take a similar share if they so desire; each interest concerned to have equal representation on the governing body of the combination; details to be arranged by the several wireless interests in question, under the respective control of their governments.

2. Subject to the consent of China, existing stations or stations in course of construction to be brought under the combination, suitable compensation on being made by the combination in respect of legitimate expenses already incurred.

The Chinese national wireless company also to be brought under the combination subject to the same conditions.

3. The Great Northern Telegraph Company to be at liberty either to set up a station in China to supplement its Peking-Siberian land lines, on the understanding that such traffic only is forwarded by means of this station as would normally pass over the Northern Company's land lines; or, as an alternative to arrange for the use for that purpose of stations erected by the combinations.

4. The combination to arrange for the embodiment of the best radio practice in the station which it constructs, and for the efficient working of the station so long as it works them; but subject to these conditions the several wireless interests to take a fair share both in constructing and in working the station. The combination also to arrange, as far as possible, for the opening of services, on suitable terms with any station in other countries with which communication can be effected.

5. All wireless traffic between China and other countries to be sent by means of station of the combination, and by the most direct route, unless the sender otherwise directs, or unless the direct route is interrupted or congested.

6. External radio traffic to be exchanged in the interior of China either by radio or by land line subject to the principle that within the interior of China the land line and radio net-work will supplement each other.

7. The 4 powers whose wireless interests affected to support diplomatically the arrangements above set forth, and not to support other wireless undertakings in China.

8. In consideration of the withdrawal by the Eastern Extension and the Great Northern Telegraph Company of the veto which they claim on the use of wireless in China for communication with other countries, the four Powers to support the companies in securing from China arrangements for ensuring the efficient working of the Chinese Coast cables and land lines in conjunction with the companies' system after 1930, (substantially on the basis of the existing working agreements), and generally for the protection of their legitimate interest; on the understanding that such arrangements will not involve any monopoly, and will leave a fair field for wireless in China, but without preference as compared with cables, except that the rates chargeable to the public for communication by wireless may be 25 Per cent, lower than the corresponding rates by cable, and that the rate for communication by wireless with America need not be higher than the wireless rate to eastern Europe. The companies' withdrawal of their veto not to be regarded as definitive until such arrangement have in principle been agreed to by China.

(右譯文)

一、支那政府統轄ノ下ニ組織セラルヘキ無線事業ノ合同ハ(一)支那政府所要ノ無線局ノ建設及(二)右建設ニ要シタル立替金ノ償却完了迄又ハ支那ノ希望ニ依リテハ爾後ニ於テモ其ノ業務運用ニ當ルコトヲ目的トス

右合同ノ財政的基礎ハ投資代表機關業務運用等ニ付佛、英、日、米ノ各國側トモ平等トス大北電信會社ニ於テモ其ノ希望ニ依リ同様ノ分前ヲ以テ合同ニ加ハルコトヲ得

右合同ニ關スル細目ハ各國利害關係者ヲシテ各國政府ノ統轄ノ下ニ協定セシム

二、支那政府ノ同意アルニ於テハ現存又ハ現ニ建設中ノ無線局ハ其ノ既ニ支出セル正當ナル費用ニ對シ相當報償ヲ爲シタル上之ヲ合同ニ加フヘシ

支那國營無線會社モ同様ノ條件ヲ以テ右合同ニ加入シ得

三、大北電信會社ニ對シテハ其ノ北京西北利亞陸線ノ補充トシテ右陸線ニ依ルヘキ通信ノミヲ取扱フ了解ノ下ニ無線局ヲ設立シ又ハ其ノ代リニ合同事業ニ依リ設立セラレタル無線局ヲ右ノ目的ニ使用スルノ協定ヲ爲スノ自由ヲ與フヘシ

四、合同事業ハ其ノ建設セル無線局ニ於テ最モ良ク無線電信ヲ營ミ該局ノ有效ナル運用ヲ爲スコトニ付協定スヘシ但シ右條件ノ下ニ各當事者ハ無線局ノ建設運用ニ付公平ナル分擔ヲ爲スヘキモノトス

合同事業ハ又其ノ通信ヲ行フヘキ他國ノ局トノ間ニ適當ノ條件ヲ以テ其ノ通信事務開始ニ關シ出來得ル限り速カニ協定ヲ遂クヘシ

五、支那ト他國トノ間ノ無線通信ハ凡テ合同事業ノ局ヲ經テ之ヲ行ヒ且ツ發信者カ別段ノ指示ヲ爲サス又該經路ニ故障發生シタル場合ニ非サル限り最モ直接ノ經路ニ依リテ之ヲ行フヘキモノトス

六、對外無線通信ハ支那内地ニ於テハ陸線及無線カ互ニ補充スルモノナリトノ主義ノ下ニ無線又ハ陸線ニ依リ支那ノ内地ニ接續スヘキモノトス

七、關係四國ハ外交上右協定ヲ支持シ他ノ無線事業ヲ支持セサルヘキモノトス

八、大東大北兩電信會社カ對外通信ニ對シ支那ニ於ケル無線電信使用ニ關シテ有スル拒否權ヲ拋棄スルノ代價トシテ關係四國ハ兩會社カ現在ノ組織ヲ以テ一九三〇年後ニ於テモ大體現存協定ノ基礎ノ上ニ支那沿岸海底線及陸線ヲ有效ニ運用シ得ルコト竝一般ニ其ノ正當利益ノ保護ニ關シ支那政府ノ保障ヲ取付クルコトニ支援ヲ與フヘシ但シ右ハ支那政府トノ協定ハ兩會社ニ對シ何等獨占權ヲ成立セシメス支那ニ於ケル無線電信ハ依然公平ノ待遇ヲ許サルヘキモノニシテ無線ニ依ル公衆通信料金ハ海底線ニ依ル同一通信ニ比シ二十五「パーセント」低額ナルヘキコト並亞米利加トノ間ノ

無線通信料金ハ東部歐羅巴トノ間ニ於ケルモノヨリモ高額ナルヲ要セサルコト以外ニ海底線ニ比較シ何等優先權ヲ有セストノ了解ニ基クモノトス

前記兩會社ノ拒否權拋棄ハ支那政府カ右協定ヲ主義上承認スルニ至ル迄確定的ノモノト認ムヘカラス

右英佛新案ヲ「グイヴァニ」案ト比較スルニ新案ニ事實上「グイヴァニ」案ノ所謂委員會ノ實際的建議事項ニ該當スルモノニシテ具體的方面ニ一步ヲ進メタルモノト云フヘク即チ「グイヴァニ」案ニハ單ニ支那ヲシテ最新式ノ無線局ヲ所有スルヲ得セシムルコトカ合資事業ノ目的ナルカ如ク漠然タル規定アルニ過キサルニ反シ新案ニ於テハ其ノ目的ヲ明定シ無線局ノ建設ニ加フルニ右建設等ニ要シタル立替金ノ償却完了スル迄又ハ支那ノ希望如何ニ依リテハ其ノ後ニ於テモ該無線局ノ業務運用ニモ當ルコトトセリ「二」新案ハ合同ノ基礎ヲ定メ投資代表機關業務運用等ニ於テ總テ各國平等トシ且ツ「グイヴァニ」案ニ於テハ三井局ノ如キ既設局ノ地位等ニ何等言及スルコト無カリシモ新案ニハ既設局及建設中ノ局ノ正當ナル支出金ニ對シ相當報償ヲ爲シテ合同ニ加フルコトヲ明ニセリ「三」更ニ新案ハ合同事業ト大北大東兩會社ノ支那ニ於ケル獨占權トノ關係ヲ明白ナラシメタリ「グイヴァニ」案ニハ此ノ點ニ付何等ノ規定ナキ處新案ニハ大北會社モ合同ニ加入シ得ルコトトシ尙支那沿海海底電線及陸線ノ運用ニ對スル大北大東兩社現在ノ地位ヲ承認シ一九三〇年後ニ於テモ大體其ノ地位ヲ維持シ得ルコトノ保障ヲ支那ヨリ取付クルコトニ付合同關係國ニ於テ支援スルコトトシ大概無線電信ノ關スル限り兩社ノ有スル獨占權ハ之ヲ放棄セシムルコトトセリ

之ヲ要スルニ新案ハ大部分帝國政府訓令ノ趣旨ニ添ヒ「グイヴァニ」案ニ比シ勝ルコト數等ト認メラルルノミナラス大北大東兩社ノ無線電信獨占權問題ノ關スル限り前記帝國政府訓令ノ趣旨ニモ適應スルモノト認メタルヲ以テ帝國全權ハ爾後會議ニ於テ右兩案提議セラルル場合ニハ「一」合同事業カ無線機器及材料ノ供給等ヲモ營ミ得ルコトヲ明確ニシ「二」合同以外ノモノニ對シ特權等ヲ與ヘサルコトノ保障ヲ支那ヨリ取付クルコトノ二項ヲ追加シ主義上新案ニ贊同スルト同時ニ「グイヴァニ」案ヲ撤回セシムルノ策ニ出テタリ

英佛代表
ニ對スル
支那側意
見

英佛代表
ニ對スル
覺書案

英佛新合
同案贊成
帝國全權
請訓

一月二十
五日帝國
政府同訓

然ルニ其ノ後英國隨員ハ前記新案ヲ支那側ニモ内示シ其ノ大體ノ意向ヲ糺シタルニ支那側ニ於テハ此ノ際ハ本問題ノ大綱ヲ討議スルニ止メタリ合同組織案ノ如キハ寧ロ會議以外ニ於テ關係各國間ノ協定ニ讓リタシトノ希望ナリシヲ以テ右支那側ノ内意ヲモ參酌シ曩ニ内示セル骨子ニ依リ之ヲ會議外ノ協定ニ讓ルコトトセル覺書ヲ試ニ作成セリトテ帝國隨員ニ對シ更ニ右案文ヲモ内示シ尤モ之カ爲過日ノ決議案ヲ放棄セル次第ニハ非サル旨附言セル趣ナルカ前記ノ如ク曩ニ提示セル英佛側ノ新決議案ハ大北大東ノ無線獨占權ノ放棄ヲモ明記シ我方ニ取リテハ「ヱイヴイアニ」案ニ比シ頗ル有利ト認メラルル處新覺書案ニ依レハ右等ノ協定ハ單ニ之ヲ關係國政府ニ勸奨スルコトトナリ居レルヲ以テ斯テハ折角英國側ヨリ進ンテ提言シ來タレル大北大東獨占權ノ放棄ヲ此ノ際確定シ置クノ機會ヲ逸スルノ惧モアルニ付右覺書案ノ併セテ上議セラルル場合ハ我方トシテハ寧ロ先方當初ノ提言通り前記新決議案ニ依ラムコトヲ主張スルヲ以テ利益ナリト認メ右ノ次第ヲ帝國政府ニ稟申シ來レリ

依ツテ本件關係官廳係官再ヒ外務省ニ集合シ右ニ關スル打合ヲ爲シタル結果一月二十五日帝國政府ハ在華府全權ニ對シ大北大東兩社ノ獨占權廢棄ハ頗ル重要ノ意味ヲ有スルモノナルヲ以テ此ノ機會ニ於テ曩ニ電訓シタル趣旨ヲ一應提議シ若シ會議ノ狀況ニシテ右ノ提議ヲ困難トスルニ於テハ大體ニ於テ右請訓ノ通措置シ差支ナキ旨二三ノ注意事項附記ノ上再ヒ同訓スル所アリタリ

(四) 「ヱイヴイアニ」決議案立消ト「ルート」氏ノ委員會設置案

上來記述セル如ク支那無線電信問題ニ關スル「ヱイヴイアニ」決議案ニ付テハ當初右提案ニ際シ埴原全權ヨリ本問題カ地理的地位及現存利益ノ見地ヨリ日本ニ取リ頗ル重大ナル關係ヲ有スル旨ヲ指摘シテ本件討議ヲ留保シ支那側亦同様討議ノ猶豫ヲ求メタルカ其ノ後既記ノ如ク英佛兩國側ヨリ我方隨員ニ對シ非公式ニ新案提示ノ次第アリ且ツ右英佛側提言ハ米國側トノ間ニモ大體ノ諒解アルモノノ如ク認メラレ旁々帝國全權ニ於テハ本問題ノ討議ハ前記專門家間ノ談合略纏リタル上出來得ル限り我方ニ有利ナル解決ヲ期シツツアリタリ

一月二十
日第七回
起草委員
會

「ルート」
新決議案

然ルニ一月二十日第七回起草委員會ニ於テ前記「ヱイヴイアニ」案上程セラレタルヲ以テ埴原全權ハ本案ハ極東問題總委員會第十五回會議ニ於テ論議セラレ何等意見ノ一致ヲ見ルニ至ラス未タ起草委員會ニ附托セラレタル事實ナキコトヲ指摘シタル上本問題ハ我方ニトリ頗ル重大ナル關係ヲ有シ目下專門家ニ於テ折角研究中ナル處同日ノ會議ハ突然開會セラレタルヲ以テ何等ノ準備ナク日本側トシテハ適確ナル意見ヲ開陳スルコトヲ得サル旨述ヘタルニ「ルート」委員長ハ之ヲ承ケ「ヱイヴイアニ」案ノ企圖スル所廣大複雑ニシテ之ヲ本會議ニ於ケテ論議解決スルコトハ頗ル困難ナリトテ次ノ如キ決議案ヲ提出シ之カ討議ヲ求メタリ

The United States of America, Belgium, the British Empire, France, Italy, Japan, the Netherlands and Portugal, desiring to avoid controversies regarding electrical communication facilities and services in China, and between China and other countries, and particularly over concessions or contracts in China relating thereto, and desiring to promote the further development of the internal and external electrical communication facilities and services of China in such a manner as to conform to the public policy of China and to produce the greatest possible benefit, have agreed:

That a Commission be constituted at once by the appointment of one member on the part of each government represented in the present Conference; that the said Commission shall inquire into existing concessions, contracts, treaties and loans relating to electrical communications in China and between China and other countries, the adequacy of present services, and the need for additional services, and shall confer with the Chinese Government upon the policy and purposes of that Government in respect of such communications, and upon the available and expedient methods of reconciling the actions of other Powers and the nationals thereof to such policy, and shall report thereon to the several powers represented in the commission as soon as possible,

but not later than the time set for the next meeting to be called in accordance with the provisions of the International Telegraph Convention in 1875, and the next meeting to be called in accordance with the provisions of the International Radio-Telegraph Convention of 1912.

The said Commission shall take into consideration and reports on the matters contained in the resolution reported to the Committee on Pacific and Far Eastern questions by its Drafting Committee on the Seventh of December, 1921, and the resolution offered in the Committee on Far Eastern affairs on the same day by M. Viviani, in behalf of the French Delegation.

(右譯文)

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那内地及支那ト列國トノ間ニ於ケル電氣通信施設及業務並右ニ關スル許容若クハ契約ニ關スル爭議ヲ避ケムコトヲ希望シ且ツ支那ノ一般政策ニ合致シ及出來得ル限り大ナル便宜ヲ來スカ如キ方法ヲ以テ支那内外ノ電氣通信施設及業務ヲ益々増進セシムルコトヲ希望シ左ノ通り協定ス

本會議參列各國ヨリ各一員ノ委員ヲ選出シテ速カニ委員會ヲ組織スヘシ右委員會ハ支那内外ノ電氣通信ニ關スル現存ノ許容、契約、條約及借款、現在業務ノ充足ノ程度並増設ノ必要ニ付調査ヲ爲シ、該通信ニ關スル支那政府ノ政策及意圖並列國及其ノ國民ノ行動ヲ右施設ニ合致セシムヘキ有效便利ナル方法ニ付支那政府ト協議ヲ遂ケタル上一八七五年萬國電信條約ノ規定ニ依リ招集セラルヘキ次回會議ノ期日以前ニ成ルヘク速ニ該委員會ニ代表セラルル各國ニ對シ右ニ關スル報告ヲ提出スヘシ但シ右次回會議ハ一九二二年萬國無線電信條約ノ規定ニ準據シテ之ヲ招集スヘキモノトス

前記委員會ハ一九二一年十二月七日太平洋及極東問題委員會ニ於テ起草委員會ヨリ報告セル決議案及同委員會ニ於テ佛國全權「ヴィヴィアニ」氏ノ提出セル決議案中ニ包含セラルル事項ヲ考量ニ加ヘ右ニ關シ報告ヲ提出スヘシ

英國委員
贊成

佛國委員
躊躇

意見不一
致

「ルート」
新案ニ對スル帝國
全權ノ對策

「ルート」決議案ハ要スルニ「ヴィヴィアニ」案ノ無線合同主義ニ關シテハ何等言及スル所ナク單ニ支那無線事業ニ關シ華府會議ヲ離レ一ノ委員會ヲ組織シテ之ヲ討究セシメントスルモノナルカ之ニ對シ英國全權「ゲデス」氏ハ「支那無線電信ニ關スル各種ノ企業又ハ特權ニ付慎重講究スルノ要アル可キモ本會議ニ於テ其ノ委曲ヲ討議シ盡スコト困難ナル可ク從テ本會議ニ於テハ單ニ本問題ノ攻究ノ爲メ一ノ國際機關ノ組織ヲ生シ出スニ止メ自餘ノ具體的問題ハ華府會議ヲ離レ前記國際機關ヲシテ審議セシムルコトスル方機宜ニ適ス可シ」ト意見ヲ陳述シテ寧ろ右「ルート」案ヲ支持スルノ態度ニ出テ之ニ對シ佛國委員ハ「本問題ニ關スル研究委員會ヲ全然本會議ト獨立ニ組織スルモノト爲スハ佛國ノ贊同シ難キ所ナルモ本會議ノ分科會トシテ「ルート」案ノ如キ事項ヲ利害關係者專門家ヲモ加ヘテ攻究スルコトニハ異議ナシ切メテ「ヴィヴィアニ」案ヲ基礎トシテ討議ノ上本會議ニ於テ原則タケニテモ主義上ノ決定ヲ見ントコトヲ希望スルモノナリ」ト述ヘ其ノ他各國委員亦交々陳述應酬スル所アリタルカ結局要領ヲ得スシテ散會シ一切ヲ次回ノ會議ニ讓ルコトナリタルカ散會後「ゲデス」氏ハ壇原全權ニ向ヒ「ヴィヴィアニ」案ニハ英米共反對ナル旨内話セリ

右「ルート」案ハ「ヴィヴィアニ」案又ハ英佛代案ノ如ク支那無線合同主義ニ關シ何等表明スル所ナシト雖モ此ノ際我方ヨリ進テ合同主義ヲ主張スルハ本件ニ關スル當初帝國政府訓令ノ趣旨ニ鑑ミ面白カラス又「ヴィヴィアニ」案ニ我方ノ希望スル修正ヲ加ヘテ之ヲ成立セシムルコトヲ進テ主張スルトスルモ大北、大東獨占權問題ニ觸レサル時ハ之亦訓令ノ趣旨ニ鑑ミ面白カラス然リトテ元來米佛ノ主張相反撥シ一方英國側ニ於テハ寧ろ米國側主張ヲ支持スルノ態度ニ出テツツアル以上此ノ際我方ニ於テ別個ノ妥協案ヲ提出スルモ到底之カ成立ヲ期シ難シト認メラレタルヲ以テ帝國全權ハ此ノ際「ルート案」ニ對シ兎角ノ反對意見ヲ挿ムコトナク若シ其ノ成立ヲ見ルニ於テハ一切ノ問題ハ之ヲ前記委員會ニ於ケル論議ニ讓リ其ノ間我探ル可キ今後ノ方針ニ關シ慎重講究ヲ遂クル方得策ト認メ委員會再開ノ節ハ大體右ノ方針ヲ以テ措置スルコトトシ右ノ次帝國政府ノ承認ヲ請ヒ事レリ

越エテ一月二十四日第二十五回總委員會ニ於テ西比利問題、露清密約問題、對支武器彈藥輸出問題等ニ次イテ無線電信問

一月二十
四日第二
十五回總
委員會

在支無線
問題太平
洋電氣通
信問題ニ
移ル

「ルート」
案提出

題ハ米國議題試案中太平洋ニ於ケル電氣通信問題ノ形ニ於テ再ヒ討議ニ附セラレタルカ議長「ヒューズ」氏ハ本問題中第一點即チ舊獨領海底電線處分ニ付テハ日米間ニ既ニ協定成立シ居ルヲ以テ討議ノ餘地無ク第二點ノ獨領電線以外ノ電線問題ニ付委員會ノ意見ヲ問フ旨述フルヤ「ルート」氏ハ極東問題總委員會第十八回會議ニ於ケル「ヴィヴィアニ」氏提案ノ未タ採用セラレサル経緯ヲ説明シタル後『該提案ノ趣旨ハ各國ニ於テ異議ナキ所ナルモ其ノ採用ノ結果果シテ満足ナル效果ヲ收メ得ヘキヤ否ヤハ一ニ支那政府ノ措置如何ニ繫ル即チ電信局ノ設置ニ付各種實際的情況ノ研究ヲ要スルト共ニ其ノ經營ニ付テモ合同組織ニ依ルヘキカ將又競争ヲ許スノ制度ヲ採ルヘキカハ支那政府ノ決定スヘキ政策如何ニ俟タサルヘカラス兎ニ角本委員會ノ決議ヲシテ予ハ一箇ノ案文ヲ作製シタリ』トテ曩ニ同氏カ起草委員會第七回會議ニ提出シタル前記決議案ニ對シ委員會ノ組織其ノ會合ノ日時場所及其ノ講究事項等ニ關シ些少ノ改訂ヲ加ヘタル決議案ヲ朗讀セリ而シテ右改訂ノ點ハ委員會開會ノ期間ヲ本協定成立後六箇月トシ開會期日及場所ハ委員間ニ於テ協定スヘキモノトシ尙同委員會ノ講究事項ヨリ前記十二月七日總委員會ニ報告ノ決議案ヲ除外セルニ過キス

討議延期

右ニ對シ佛國全權「サロー」氏ハ本問題ニ關ジテハ手許ニ書類ヲ有セス直チニ意見ヲ述フルコト困難ナリトテ討議延期ヲ請求シタル結果次回ニ於テ該決議案ニ付審議スルコトナリタリ

(五) 「ルート」氏ノ新決議案

一月二十五日極東問題總委員會第二十六回會議ニ於テ無線電信問題ノ續議セラルルヤ支那全權施氏ハ(一)支那政府ハ其ノ許可ナクシテ支那ニ存在スル無線電信局ノ撤去ヲ實現シ有線無線共ニ支那政府ニ於テ統一セムコトヲ希望スルコト(二)「ルート」氏ノ所謂支那ノ執ルヘキ通信制度ニ關スル政策ニ付テハ更ニ研究ノ時日ヲ假サレタキコト及(三)支那ト各國トノ國際無線通信ニ付テハ萬國郵便條約ノ如キ一般協定ニ從ヒテ規定セラルヘキヲ希望スルコト等ノ意味ノ陳述書ヲ朗讀シタルニ「ルート」氏ハ「ヴィヴィアニ」案討議以來ノ經過ヲ簡述シタル上本問題ニ關シ専門家ノ意見ヲ徵シタル上新決議案ヲ作製セリトテ次ノ如キ案文ヲ提出セリ

「ルート」
新決議案

The United States of America, Belgium, the British Empire, China, France, Italy, Japan, The Netherlands and Portugal, desiring to avoid controversies regarding electrical communication facilities and services in China, and between China and other countries, and particularly over concessions or contracts in China relating thereto, and desiring to promote the further development of the internal and external electrical communication facilities and services of China, and taking note of the general policy of the Government of China to own and operate electrical communication services within its territory, have agreed:

(1) That the provisions set forth in the resolution concerning the open door shall apply to electrical communications in China and other countries.

(2) That in any case where, in the general interests, the rescission of an existing monopoly or preferential privilege in respect to electrical communications in China, or between China and other countries, is deemed desirable, the Powers whose interests are affected stand ready to use their good offices, if requested by China, to bring about such rescission.

(3) That no radio stations shall be erected or operated on Chinese territory without the authorization of the Government of China and, as to any existing un-authorized station, the right of the Government of China either to order its removal or to take it over upon payment of fair and reasonable compensation is expressly recognized.

(4) That without the express consent of the Government of China no additional radio stations shall be erected in the legation quarter at Peking, in settlements, in concessions, in leased territories, in railway areas or in other special areas; nor shall the power of existing stations in any such areas be increased, nor shall such stations carry on ordinary commercial working.

(5) That such radio stations as are authorized by the Government of China, whether by treaty or concession, shall comply with the terms of such authorization, and with the provisions of the International Radio-Telegraph Convention or any modification thereof, and, where the stations are authorized to conduct commercial services, such services shall be available on like terms to the nationals of every country.

(6) That any Powers or the nationals of any Powers operating radio stations in the territory of China, or in the special areas indicated heretofore, shall confer with the Government of China for the purpose of seeking a common understanding with a view to avoiding interference, subjects to any general international arrangement which may hereafter be agreed to.

(7) That the electrical communication services between China and other countries may develop in a proper and orderly manner and in accord with the policy of China, the Powers stand ready to exchange views either generally or severally as occasion may arise.

(右譯文)

亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、和蘭國及葡萄牙國ハ支那内地及支那ト列國間ニ於ケル電氣通信ノ施設及業務殊ニ右ニ關スル許容若クハ契約ニ關スル爭議ヲ避クルコト並支那内外ノ電氣通信施設及業務ヲ益々發達セシムルコトヲ希望シ且ツ支那領土内ニ於ケル電氣通信業ヲ國營タラシメムトスル支那政府ノ政策ヲ尊重スルノ趣旨ヲ以テ次ノ通り協定ス

(一) 門戸開放ニ關スル決議ハ支那内地及支那ト列國間ニ於ケル電氣通信ニモ適用セラルヘシ

(二) 公益上支那内地若クハ支那ト列國間ニ於ケル電氣通信ニ關スル現存ノ獨占權若クハ優先權ノ取消ヲ適當トスル場合ニハ右ニ依リ影響ヲ蒙ルヘキ國ハ支那ノ要求アル場合何時ナリトモ右取消實行ノ爲周旋ヲ爲スヘシ

(三) 將來支那領土内ニ於テハ支那政府ノ許可ナクシテ無線電信局ノ設立運用ヲ許サス支那ノ許可ヲ得サル現存無線電信局ニ關シテハ之カ取消ヲ命シ又ハ公平妥當ナル代償ヲ拂ヒタル上之カ引繼ヲ受クヘキ支那政府ノ權利ヲ確認ス

(四) 將來支那政府ノ明確ナル承諾ナクシテ公使館區域、租界、居留地、租借地、鐵道附屬地若クハ其ノ他ノ協定區域ニ無線電信局ノ設立ヲ許サス且ツ右等地域ニ於ケル現存無線電信局ハ其ノ電力ヲ増加シ又ハ普通商業通信ヲ取扱フヲ得ス

(五) 條約又ハ許容ニ依リ支那政府ノ許可ヲ得タル無線電信局ハ右許可ノ規定及國際無線電信條約又ハ其ノ修正規定ニ準據スルコトヲ要シ又右等無線電信局カ商業用通信ヲ取扱フノ權限ヲ有スル場合ニハ右施設ハ同様ノ條件ノ下一率ニ各國民ノ利用ニ供スルコトヲ要ス

(六) 支那領域内若クハ前記特別地域ニ於テ無線電信局ヲ運用スル各國又ハ其ノ國民ハ今後締結セラルヘキ一般國際協定ニ從ヒ相互ノ妨害ヲ避クル爲メ共通ノ了解ヲ遂クル目的ヲ以テ支那政府ト協議スヘシ

(七) 支那ト列國間ノ電氣通信事業ハ之ヲ支那ノ政策ニ合致シ且ツ適當ニシテ秩序のナル方法ニ於テ發達セシムルノ目的ヲ以テ列國ハ問題ノ發生スル毎ニ何時ニテモ一般的若クハ個別的ニ意見ヲ交換スヘシ

米國側
度不明

右ニ對シ佛國委員「カムレル」氏ハ右「ルート」新決議案中ニ「ヴィヴィアニ」案ノ趣旨ヲ加味スルコト及無線電信ニ關スル客年十二月七日ノ決議トノ調和ヲ計ルノ必要アルコトヲ指摘シタルニ米國全權「アンダーウッド」氏ハ「ルート」新提案中支那ノ特許ノ下ニ設置セラル可キ無線電信局ハ無線電信ニ關スル一切ノ國際協約及其ノ修正規定ニ準據ス可キ旨ノ規定アルコトニ言及シ「同規定ハ該國際協約ニ支那ノ同意スルト否トヲ問ハス之ニ準據センコトヲ強要スルモノニシテ豫メ此ノ點ニ關シ支那ノ主權拋棄ヲ約セシムルモノナリ支那ノ完全ナル主權回復ヲ助成セントスル本會議ノ希望ニモ願ミ右ノ如キ主權ノ一部拋棄ヲ迫ル「ルート」新決議案ニハ贊成スル能ハス」ト述ヘ英國全權「ゲズ」氏ハ前顯十二月七日決議ノ第一項公使館區域内ノ無線電信ニ關スル規定ニ基キ「ルート」決議案第四項中ニ「此京公使館區域内無線局ハ其ノ使用ヲ

十二月七日
再決議案

官用通信ノミニ限ルヘシ云々」ノ趣旨ヲ挿入スヘシト主張シタルニ加奈陀代表「ボルデン」氏ハ十二月七日ノ決議案ト今回「ルート」案トノ關係ニ付質問シ兩案ハ略同様ノ内容ヲ有スルモノナルカ「ルート」新決議案ヲ以テ十二月七日ノ決議案ヲ取消サムトスルモノナリヤ將又修正セムトスルモノナリヤト問ヒタルニ「ヒューズ」氏ハ十二月七日ノ決議案ハ未タ公開會議ヲ經サルヲ以テ確定的ノモノニ非ス從ツテ若シ「ルート」案ニシテ採用セラルルニ於テハ十二月七日ノ決議案ハ取消サルヘキモノト解スト答ヘタリ

次イテ佛國委員ハ十二月七日決議案ノ形式再考ニハ異議ナキモ其ノ實質ニ觸ルルコトニハ反對ナル旨述ヘタル上進ンテ「グイグイアニ」案ノ趣旨ヲ「ルート」案ヲ添加セムコトヲ提議シ「バルフォア」氏ハ今茲ニ(一)十二月七日ノ決議案(二)「グイグイアニ」案(三)「ルート」案及(四)「ルート」新案ノ四個ノ提案アル處之ヲ同時ニ討議スルハ徒ラニ混雜ヲ來シ議事ヲ遷延セシムルニ過キサルヲ以テ之ヲ分科會ニ移シ右四案ヲ纏メテ本會議審議ノ基礎ヲ作成セシムルニ如カサル旨ヲ述フルヤ「ヒューズ」氏ハ四提案ノ内容ハ既ニ明カナルヲ以テ一括シテ之ヲ起草委員會ニ附托シ速カニ本件ヲ纏メムコトヲ提議セリ

無線問題
諸委員起案
附托委員會

依テ幣原全權ハ本問題ヲ起草委員會ニ移牒スル件ニハ異議ナキモ既ニ充分論議ヲ盡シタル結果採用セラレタル十二月七日ノ決議案ノ内容ヲ再考スルコトハ佛國側ト等シク反對ナル旨ヲ述ヘ「カムレル」氏填原全權共ニ之ヲ支持シテ起草委員會ニ移牒スルモ十二月七日ノ決議案ノ實質ニハ觸レシメサル趣旨ナルヘキヲ指摘シタルモ「ヒューズ」氏ハ該決議ヲ確定的ノモノニ非サルヲ以テ本會議トシテハ再考ヲ妨ストノ意見ヲ繰返シ遂ニ本問題全部ヲ起草委員會ニ移牒シテ審議セシムルコトニ決シタリ

一月二十
五日
英
內閣議

(一) 起草委員會ニ於ケル討議

一月二十五日極東總委員會第二十六回會議閉會後英國全權「ゲデス」氏ハ「グイグイアニ」「ルート」兩案ヲ調和シテ作製セル簡單ナル決議案ヲ填原全權ニ示シ英國側ハ同日午後ノ起草委員會ニ之ヲ提出スルト共ニ十二月七日ノ決議案ハ其ノ儘維持

一月二十
五日
英
內閣議

スヘキヲ以テ日本側ノ支持ヲ得タキ旨內話シタルヲ以テ帝國委員ハ之ニ賛成シ置ケリ
同日午後ノ起草委員會第八回會議ニ於テ先ツ佛國委員「カムレル」氏ハ「ルート」第二案ニ對シ既ニ昨年十二月七日決議セラレタル部分ハ之ヲ削除スヘキコトヲ主張シタルカ「ゲデス」氏ニ代リテ出席セル英國委員「ピアース」氏ハ「本問題ハ事態極メテ複雑ニシテ各種案文ヲ本委員會ニ於テ同時ニ討議スルモ終結ヲ見ルコト容易ナラサルヘキヲ以テ十二月七日ノ決議案ノ内容ハ其ノ儘トシ別ニ「グイグイアニ」「ルート」兩案ヲ調和セル一案ヲ作成セリ」トテ曩ニ帝國委員ニ内示セル前記「ゲデス」案ヲ提示シ同案ハ十二月七日決議ノ前文トスルモ可ナル旨附言セリ同案ノ内容次ノ如シ

The Powers represented at this Conference, desiring to avoid controversies regarding electric communication facilities and services in China, and between China and other countries, and particularly over concessions or contracts in China relating thereto, and desiring to promote the further development of the internal and external electrical communication facilities and services of China in such a manner as to conform to the public policy of China, and to the principles declared by the present Conference, and to produce the greatest possible benefit in the least wasteful manner, agree to encourage all endeavours on the part of their nationals in consultation with Chinese Government to reconcile any wireless interests which they claim to possess in China, so far as these interests may be in conflict with one another, and generally to provide means of radio communication in China, and between China and other countries, in conformity with the foregoing principles.

(右譯文)

本會議參列諸國ハ支那内地及支那ト他國間ニ於ケル電氣通信施設及特ニ右ニ關スル支那ニ於ケル許與若クハ契約ニ關スル爭議ヲ避ケムコトヲ希望シ且ツ支那ノ政策竝本會議ニ於テ言明セラレタル主義ニ合致スルカ如キ方法ヲ以テ支那内外ノ電氣通信施設ヲ益々發達セシメ進ンテ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ便宜ヲ増進セムコトヲ希望シ其ノ國民ニ於テ支那政府

支那側反
對

ト協議ノ上其ノ支那ニ於テ有スル無線電信事業上ノ利益ノ相互ニ衝突スル場合之ヲ調和シ且ツ上記ノ原則ニ從ヒ一般的
ニ支那内地及支那ト他國間ニ於ケル無線電信手段ヲ確保スルノ企圖ヲ援助スヘキコトニ同意ス
右ニ對シ「カムレル」氏及植原全權ハ右英國案ヲ妥當ナリトシテ之ヲ討議ノ基礎トセムコトヲ主張シタルニ施氏ハ英國案カ
廣ク電氣通信ナル文字ヲ使用シ且ツ支那國內通信問題ヲモ包含スル疑アル點ヲ指摘シ「元來本問題ハ十二月七日ノ決議ノ
無線電信問題ニ端ヲ發シタルモノニシテ有線電信ニハ關係ナシ故ニ此ノ點竝ニ支那國內通信問題ニ付決議ヲ爲スノ點ニ付
テハ贊成シ難シト反對シタルカ「ビヤース」氏ハ「ルート」案既ニ同様ノ文字ヲ採用シ居ル旨ヲ指摘シテ之ヲ辯駁セリ更ニ
「ルート」氏ハ支那側ニ於テ有線電信ニ關シ何等支障アリヤヲ訊セルニ對シ施氏ハ支那政府ハ大北電信會社ニ千九百三十年
迄獨占權ヲ許與シ居ル旨ヲ答ヘタリ

「ルート」
氏十二月
七日決議
再議提言
各國再議
反對

次イテ「ルート」氏ハ總委員會ヨリ通牒セラレタル四個ノ提案ニ付調節ヲ計ラサルヘカラサルヲ以テ順序トシテ先ツ十二月
七日ノ決議案ヲ再審議スヘシト主張シタルヲ以テ植原全權ハ「該決議案ハ總委員會ニ於テ一旦確定セル所ナルヲ以テ今更
之カ變更ヲ試ミルハ徒ニ事態ヲ紛糾セシムルニ過キス故ニ此際全然該決議案ニハ觸レズ其ノ他ノ案ニ付該確定案ニ矛盾セ
ナル範圍ニテ調節案ヲ作ル方針ヲ以テ進ムコト然ルヘシ」ト主張シ佛英伊蘭各國委員モ相次テ右十二月七日決議再考力事
理ニ反シ又ハ其ノ必要ナキ所以ヲ述ヘテ反對シタル結果「ルート」氏ハ「右各委員ノ間ニ意見一致ヲ缺ク點ハ次回ノ協議ニ
讓ルヘク但シ十二月七日ノ決議各項ニ付キ一應各委員ノ贊否ヲ承知シタト」ト採決シタルニ第一、第二、第五項ニ付テハ
異議ナカリシモ第三及第四項ニ付テハ米支葡三國委員留保ヲ爲セリ但シ佛伊兩國委員ハ逐項採決ニ反對シテ遂ニ之ニ加ハ
ラサリキ

一月二十
六日第九
回起草委
員會

翌一月二十六日第九回起草委員會ニ於テ「ルート」委員長ハ前日ノ會合ニ於テ米國ノ態度公明ナラサルヲ誤解アリタル處
十二月七日ノ決議ヲ合併セ本問題全部ヲ再考スルノ件ニ對シ各國贊成シタルハ前日ノ極東總委員會議事錄ニ明記シアル所
ナルカ十二月七日ノ決議ヲモ再考ス可シトノ點ニ付テハ委員間了解ノ充分ナラサリ疑アルヲ發見シタル旨竝ニ米國委員ハ

米國側十
二月七日
決議再議
留保撤同
支那委員
主張

前日ノ留保ヲ撤回シ十二月七日ノ本決議ハ其ノ儘之ヲ維持スルコトニ決シタル旨ヲ告ケ改メテ十二月七日決議ニ對スル本
委員會ノ意嚮ヲ承知シタキヲ諮リタルニ施氏ハ「委員長ニシテ前日ノ留保ヲ撤回シタル以上余モ同様之ヲ撤回ス可シ但シ
支那政府ノ明諾ナクシテ支那ニ存在スル外國無線電信局ニ付テハ其ノ存在ヲ是認スル能ハス支那ハ將來此ノ種電信所増設
ヲ許ス意思ナシ」ト前回ノ陳述ノ趣旨ヲ力説シタリ

「ゲデス」
宣言案

茲ニ於テ「ルート」氏ハ「十二月七日決議案ノ第三及第四項カ該項關係ノ在支無線電信局カ合法ニ存在スルヤ否ヤノ問題ヲ
決定セムトスルノ趣旨ニ非サル旨ヲ明カニスルコト必要ナルヘシ」ト提言シ之ニ對シ「カムレル」氏ハ將來ハ兎モ角現存電
信局ニ觸ルルノ不可ナルコトヲ主張シタルカ此點ニ關シ「ゲデス」氏ハ左記案文ヲ提出シ八箇國ノ宣言トシテ採用セムコト
ヲ希望セリ

DECLARATION CONCERNING THE RESOLUTION ON RADIO STATIONS IN CHINA OF

DECEMBER 7, 1921.

The Powers agree that nothing in Paragraphs 3 or 4 of the Resolutions of the December 7th, 1921 is to be
deemed to be an expression of opinion by the Conference as to whether the stations referred to therein are or are
not authorized by China.

The Powers further agree that the result of any discussion arising under Paragraph 4 must, if it is not to
be subject to objection by them, conform with the principles of the Open Door and Equality of Opportunity
approved by the Conference.

(右譯文)

支那ニ於ケル無線電信局ニ關スル一九二一年十二月七日決議案ニ關スル宣言

列國ハ一九二一年十二月七日ノ決議案第三項及第四項ニ依リ支那カ該項關係ノ無線局ヲ承認シタルモノナリヤ否ヤニ關

「ゲデス」
宣言案審
議

スル本會議ノ意見ヲ表示シタルモノト認ムヘキニ非サルコトニ同意ス列國ハ更ニ第四項ニ基ク討議ノ結果ハ列國ニ於テ
異議ヲ申出テサル限り本會議ノ承認シタル開戸開放又ハ機會均等ノ主義ニ適合スヘキモノナルコトニ同意ス
右ニ對シ「カムレル」氏ハ右第一項ニ付テハ異議ナキモ第二項ハ私權ヲ侵害スルノ傾向アルヲ以テ同意シ難シト述ヘタルニ
對シ「ゲデス」氏ハ自案第二項中「同意ス」(agree)ヲ「注意ス」(take notice)ト修正シタル上本件ハ必スシモ全會一致ヲ要セサ
ルヲ以テ留保ヲ妨ケサル旨答ヘタリ

十二月
七日
決議
維持

依テ「ルート」氏ハ右「ゲデス」案文第一項中「The Powers of other than China」ヲ挿入シタル上同案ニ付採決ヲ爲シタルニ
支那ヲ除クノ外各國異議無カリシカハ壇原全權ハ「該案ハ十二月七日ノ決議ニ追加スルモノニ非ス單ニ議事録中ニ挿入ス
ルニ止ム可キモノト解ス」ト述ヘ委員會ノ同意ヲ得タル上之ニ贊成セリ以上ヲ以テ十二月七日決議ハ其ノ儘維持セラルル
コトニ決シ其ノ他ノ案ハ同起草委員會ニテハ採用セサルコトニ決定シ其ノ旨總委員會ニ報告スルコトヲ議決シテ散會セリ
(七) 十二月七日決議ニ關スル宣言竝同支那側宣言

一月二十
七日第二
十七回總
委員會
十二月七
日決議案
審議
「ゲデス」
宣言案可決
支那側宣
言

一月二十七日極東問題總委員會第二十七回會議ニ於テ「ルート」氏ヨリ前記第九回起草委員會決定ノ次第ヲ報告シ之ニ基キ
(一)十二月七日決議ヲ更ニ承認決定スルノ件ハ全會異議ナク之ヲ可決シ(二)前記第九回起草委員會ニ於ケル「ゲデス」氏ノ
宣言案ヲ議事録ニ記入スル件モ支那側ヲ除ク外異議ナク可決セラレタリ右ニ對シ施氏ハ「支那政府ハ外國政府又ハ外國臣
民ニ對シ支那政府ノ明諾ナクシテ公使館區域、租界、居留地、租借地、鐵道附屬地若クハ之ニ類似スル地帯内ニ於テ無線電信
所ヲ設置經營スル權利ヲ是認シ若クハ許與セサルコトヲ宣言ス」ル旨ヲ陳述シ同宣言ヲ議事録ニ認ムコトヲ求メタルカ
右ハ支那一個ノ見解ニ止マルヲ以テ各國委員共反對ナク其ノ儘議事録ニ留ムルコトニ決定セリ其ノ全文次ノ如シ

THE CHINESE DECLARATION CONCERNING THE RESOLUTION OF DECEMBER 7 REGARDING THE RADIO STATION IN CHINA.

The Chinese Delegation takes this occasion formally to declare that the Chinese Government does not

recognize or concede the right of any foreign Power or of nationals thereof to install or operate, without its
express consent, the radio stations in the legation grounds, settlements, concessions, leased territories, railway
areas or other similar areas.

二月一日
第五回總
委員會
十二月七
日決議成
立

大正十一年二月一日第五回總會議ニ於テ議長「ヒューズ」氏ハ極東總委員會ニ於テ議了セル客年十二月七日ノ決議案ヲ報告
シ參列各國ノ正式承認ヲ求メタルカ各國全權ハ異議ナク之ニ正式承認ヲ與ヘタリ

(八) 在支無線電信競爭防止問題其ノ後ノ成行

各國專門
家會談
米國ノ合
同反對

米國ノ態
度ニ對ス
ル帝國側
強硬反對

支那ニ於ケル無線電信競爭防止問題ニ關シテハ其ノ後一月二十八日以來日英米佛各國專門家ノ間ニ於テ數次非公式會談ヲ
遂ケタルカ日英佛三國ハ大體其ノ所見接近シタルモ米國ハ容易ニ合同案ニ贊同ヲ表セス依然トシテ單獨ニ「フエデラル」會
社ノ企業ヲ支援シ専ラ米支通信ニ當ラントスルノ意嚮ヲ表明シタル結果四國間ニ意見ノ合致ヲ見ルニ至ラス殊ニ右米國ノ
態度ニ對シテハ帝國側ハ「フエデラル」局ノ合同加入ハ之ヲ強制シ得サルモノナルヲ以テ同局カ合同外ニ在ルコトハ已ム
ヲ得ストスルモ同時ニ日英佛三國合同局カ米支間ノ通信ヲ取扱フコトヲ得サルモノト爲スノ主義ニハ斷シテ同意シ難ク米
國ハ一方自由競爭主義ヲ主張シ乍ラ他方米支間通信ヲ「フエデラル」局ヲシテ獨占セシメトスルモノニシテ主義ニ於テ矛
盾スルノミナラス若シ合同事業成立セハ之ニ移サルヘギ北京局カ對米通信ヲ取扱ヒ得サル結果收支償フコトヲ得サルニ至
ルヘシ斯ノ如キハ決シテ公平ナル解決方法ト云フ可ラス」ト主張シテ之ニ反對シタル結果米國モ右ノ形勢ヲ斟酌シテ合同
修正案ヲ提出シ來リ之ニ對シ幾多ノ變改ヲ加ヘタル後左記ノ如キ意見書ヲ作製シテ各關係國政府ニ進達スルコトニ決定
セリ斯クシテ在支無線電信問題中最モ重要ナル競爭防止問題ハ本會議ノ關スル限り全ク失敗ニ歸スルニ至レリ
右意見書ノ要領左ノ如シ

合同問題
ノ失敗

專門家會
談意見書

一、日英佛間ニ合同ヲ組織シ右合同ハ主トシテ支那ト日英佛間ノ通信ニ當ル可キモ對手國ノ同意アル時ハ他國トモ通信

スルヲ得ヘク右合同ニハ他國モ參加シ得ルコト

二、米國ハ合同ニ入ラス「フエデラル」ハ主トシテ米支通信ニ當ル可キモ對手國ノ同意アル時ハ本國トモ通信スルヲ得ルコト支那ニ於ケル他國ノ局ハ米國ト通信スルヲ得但シ相互的ニ米國局ト通信スルニ於テ當該國力許可セサル時ハ米國ハ是ヲ禁スルコトヲ得ルコト

三、右合同及「フエデラル」トモ獨占權又ハ優先權ヲ有セサルコト

四、支那政府カ強力無線局ヲ國營トスルコトハ當分見込無キモ支那ハ何時ニテモ相當條件ニテ買收シ得ルコト

五、支那「ナシヨナル」無線ヲ擴大シテ他ノ資本モ參加シ得ルコト但シ獨占權優先權ヲ有セサルコト

六、中國電氣ト支那「ナシヨナル」間ノ牴觸セル利權ニ付テハ關係政府ニ於テ諒解ヲ遂ケシムルコト

七、海底電信會社カー一九三〇年後ニ於テ或ル期間實質上現在ノ協定ヲ基礎トシテ沿岸海底線及陸線ヲ同社系ト連結シテ繼續運用ヲナシ得ル様協定方四國ヨリ支那ニ「リコメンダ」スルコト而シテ海底電信會社ハ支那無線ニ對スル獨占權ヲ放棄シ無線ヲ自由ノ發展ニ委スルコト但シ無線ハ有線ヨリ二割五分（新聞電報ノ場合ハ夫レ以上）料金ヲ低減シ得ルノ外有線ニ對シ優越權ヲ有セサルコト

尙右意見書全文ヲ掲クレハ次ノ如シ

We the undersigned, experts for communications attached to the American, British, French and Japanese Delegations to the Washington Conference, have held several informal conversations on the subject of Radio Communication in and with China, and desire to submit the following observations to our respective governments:

(1) The British, French, and Japanese experts have exchanged views for the purpose of bringing about, with the consent of China and of their respective private interests, a cooperative scheme looking to the provision

of suitable radio stations in China for the establishment of services between China and other countries. Provisions would be made in this scheme for the participation of the nationals of other countries on fair terms. While the scheme would look primarily to the provision of communication services between China and the territories of the countries whose nationals participate, nevertheless communication services would be provided with other countries whose governments gave consent.

The proposed cooperative organization would have no monopoly or exclusive privilege and would be subject to Chinese laws and to such general international agreements relating to communications as China may be a party to.

While it is recognized that the Chinese government may not for some time to come be in position to finance or to develop high-powered radio as a national undertaking, provision would nevertheless be made for the possible purchase by the Chinese government, upon fair and reasonable terms, of stations provided in China by the cooperative undertaking.

It is proposed that the station now being erected near Peking should, upon fair and reasonable terms and with the consent of China, be included in the proposed cooperative scheme. The proposed heads of arrangement are shown in the Annex.

(2) The American expert believes that probably radio communication between China and the United States can best be developed by the erection in China of radio stations primarily concerned in trans-Pacific communications and that such stations preferably should be owned and operated by the Chinese government or by Chinese or American private enterprise and that the existing concession held by the Federal Telegraph Company should serve as a basis for providing Chinese-American service.

While such stations would be employed primarily for the provision of services between China and American territory and North America generally, nevertheless communication services could also be provided with other countries whose governments gave consent.

Other foreign owned stations in China might also communicate with American territory, but the American government might well prohibit such exchange of traffic in cases where the foreign enterprise operating in China or the country to which it owes allegiance does not reciprocally permit American owned stations to communicate with its stations.

The existing Federal concession contains no monopoly or exclusive privileges and the stations therein contemplated would be subject to Chinese laws and to such general international agreements relating to electrical communications as China may be a party to.

While it is recognized that the Chinese government may not for some time to come be in position to finance or to develop high-powered radio as a national undertaking, provision should be made in concessions for Chinese-American communication (as in all other concessions) for the possible purchase by the Chinese government, upon fair and reasonable terms, of the radio stations concerned.

(3) The enterprises contemplated by (1) and (2) should be at liberty with the approval of the governments concerned to arrange between themselves for the interchange of traffic and for such other understandings as may benefit their respective interests.

(4) The provision of suitable radio stations in China for communicating with ships at sea is particularly desirable. If foreign owned stations in China are authorized to handle ship and shore traffic, all the in-

terests concerned should cooperate with the Chinese Ministry of Communications with a view to coming to a common understanding regarding such operations.

(5) It appears desirable that the China National Wireless Company be broadened so as to make possible participation of other interests that can contribute patent rights, technical skill, or financial resources with a view to the development in China of factories capable of manufacturing a wide variety of radio apparatus. In conformity with the principle of the Open Door, such a company should not have a monopoly or preferential privileges although it is recognized that the control of patents and the participation in the ownership of the company by the Chinese government may go far toward creating a special situation.

We recommend that the governments whose nationals are interested in the China Electric Company and the Chinese National Wireless Telegraph Company should urge the two companies voluntarily to come to an understanding that will prevent conflicts arising out of their respective manufacturing concessions.

(6) We suggest that the four powers recommend to China that an arrangement be entered into with the cable companies looking toward the continued working, for a limited period after the expiration of their existing contracts in 1930, of the Chinese coast cables and landlines used in conjunction with the companied system, substantially on the basis of the existing working agreements, provided no such arrangement involves any monopoly or preferential privilege and leaves a fair field for electrical communications in China and between China and other countries; the companies to notify the Chinese government that they in turn will immediately withdraw any claim to a monopoly in wireless communication in China or between China and other countries, and thus leave free scope for wireless development, but without preference for wireless as compared with cables and landlines, except that the rates chargeable to the public for communication by wireless may be 25 per cent (or in the case of

press traffic more than 25 per cent) lower than the corresponding rates by cable, and that the rate for communication by wireless with America may be as low as the wireless rate to Western Europe; these limits to be reconsidered after 1930.

Signed: F. J. Brown.

" K. Yoshino.

" S. Inada.

" (Walter Illegible)

" Mawea.

4th February, 1922.

三國合同
案ニ對ス
ル帝國ノ
對策

右意見書ノ日英佛合同組織案ハ大體ニ於テ前顯英佛側合同案ト同様ナルモ既ニ米國ニ於テ本件合同案ヲ承認セス從テ支那無線電信局ノ完全ナル合同ヲ期待シ難シト認メラルルニ拘ラス單ニ日英佛三國間ニノミ合同ノ議ヲ進ムルコト果シテ得策ナルヘキヤ疑ハシキモノアリシヲ以テ帝國全權ニ於テハ華府ニ於ケル會談ハ此儘打切リトシ追テ専門家ノ非公式談合ヲ基礎トシ篤ト我方今後ノ對策ヲ攻究スルコトトスル外ナカルヘシト思考シ右ノ次第帝國政府ニ稟申セリ又日英佛三國合同事業組織ニ關スル意見ヲ三國政府ニテ採用スルニ於テハ英佛側ハ右合同組織ニ關スル關係事業者ノ協議會ヲ成ルヘク今後六週間内ニ巴里又ハ倫敦ニ於テ開催スルコトヲ希望シ帝國側ノ都合ヲ尋ネ來リタルヲ以テ帝國全權ニ於テハ此ノ點改メテ請訓スル所アリタリ

右ニ對シ帝國政府ハ三井無線ハ千九百三十年末迄歐米通信制限セラレ居ル等單獨經營困難ノ事情アリ旁々單ニ三國間ノミニテモ合同ノ議ヲ進ムル方事口得策ト認メラルルニ付本邦關係事業家及政府吏員ノ本件協議會參加方ニ異存ナキモ大北大東兩社獨占權並「フエデラル」會社ニ對スル三井獨占權トノ關係ニ付攻究ヲ要スルモノアルニヨリ政府ノ意嚮等ニツキ餘リ「コンミット」セサル範圍ニ於テ措置スヘキ旨二月十六日ヲ以テ同訓シ置ケリ

第八節 租借地ニ關スル問題

(一) 租借地撤廢ニ關スル支那側要望

十二月三
日第十二
回委員
會同總
支那全
權陳述

支那ニ於ケル外國租借地撤廢問題ニ關スル討議ハ支那ニ於ケル領土の及行政の保全ニ關聯スル問題トシテ十二月三日極東問題總委員會第十二回會議ニ於テ開始セラレタリ

同日ノ會議ニ於テ先ツ支那全權顧維鈞氏ハ議長ノ招キニ應ジ本問題ニ關シテ大要次ノ如キ一般の説明ヲ試ミタリ

『支那ニ於ケル租借地ハ其ノ源ヲ獨逸ノ侵略ニ發スルモノニシテ同國ノ膠州灣ノ租借ニ次キ露國其ノ例ニ倣ヒテ旅順大連ニ占據シ併テ鐵道敷設ノ權ヲ奪ヒ更ニ日露戰爭ノ結果是等ノ權利ハ舉テ日本ニ讓渡セラレタリ之ト同時ニ佛國ハ廣州灣ヲ租借シ英國ハ彙ニ九龍ヲ後ニ威海衛ヲ保有スルニ至レリ而シテ英佛租借ノ理由ハ獨露ノ侵略ニ對スル勢力均衡ノ趣旨ニ出テタルモノナリ是等租借ハ何レモ期限ヲ有シ廣汎ナル權利ヲ伴フモノナリト雖モ支那ハ之ニ對シテ其ノ主權ヲ放棄セルモノニ非ス更ニ第三國ニ讓渡スルカ如キハ租借權中ニ包含セラルルコト無ク港灣水面ノ利用等亦支那ノ保有スル所ナリ從テ其ノ土地ノ割讓ト全然性質ヲ異ニスル言フ俟タス而モ是等租借地存在理由タル當時ノ東亞政局ハ既ニ變轉シ獨逸ノ侵略去リ露國再ヒ恢復スルモ一大民主國タルヘキハ豫想ニ難カラス滿洲朝廷ノ誤レル政策ニ依リテ馴致セラレタル外國租借地ノ成立ヲ必要トセル時代ハ既ニ消滅セリ加之今次華府會議ノ開催セラレタル事實又將來ノ外交關係ハ利益爭奪ニ非スシテ共助協力スルコトヲ明示スルモノニシテ又事態ノ變遷ニ一段落ヲ成スモノナリ從來租借地ノ存在ハ支那國防ノ妨礙ヲ爲シ領土保全ヲ妨ケ所謂王國內ニ王國ヲ築クモノニシテ支那内政統一事業ヲ困難ナラシメタリ更ニ他面ヨリ之ヲ見レハ是等租借地ノ現存ハ其レ自身紛擾ノ原因ヲ成シ關東州ノ租借ハ日露戰爭ヲ誘致シ膠州灣ノ租借ハ歐洲戰爭ヲ極東ニ擴張スルニ至レリ加フルニ是等租借地ハ該租借國カ隣接地帶ニ對シ經濟的ニ優越ナル地歩ヲ確立スルノ根據地トナリ機會均等主義ヲ無爲タラシメントスルヲ以テ支那全權ハ茲ニ是等租借地ノ拋棄ヲ希望スト雖モ若シ關係國ノ同意ヲ